

**介護総合演習  
・介護実習  
ガイドブック**

**氏名** \_\_\_\_\_

**和歌山県立有田中央高等学校 総合学科 福祉系列**

# I 介護総合演習の理解

## 1 介護総合演習とは

「介護総合演習」は、校内で学ぶ各科目と「介護実習」をつなぐ科目であり、「介護実習」での学びを充実させるには、「介護総合演習」の時間に行う**事前学習**と**事後学習**が必要である。

これらの時間を合わせると、介護福祉士養成課程の1,800時間の3分の1余りに相当し、介護福祉士の養成教育において「介護総合演習」と「介護実習」がいかに重要であることを示している。

「介護総合演習」における実習の事前学習は、介護実習での貴重な経験をより深い学びにするために、他の福祉の科目で学んだ**知識や技術**を**統合化**して「介護実習」で発展させることができるように準備を行う。

また、実習終了後は振り返りにより自分の課題を明らかにし、介護に対する考察を深め、**介護観**を形成する。

## 2 介護総合演習の内容

### 【介護実習の事前学習】

「介護実習」の教育効果を上げるため、**実習施設**やそこで働く**専門職**についての理解を深めるとともに、各科目で学んだ**知識と技術**を**統合**し、介護実践につながる学習を行う。

\*具体的には

- ・実習施設等の理解
- ・介護職員や他の職種の理解
- ・生活支援技術の手順と留意点
- ・レクリエーションの意義
- ・感染症について
- ・介護実習に必要な漢字
- ・介護過程の展開（介護実習Ⅱ）
- ・介護実習の目的の理解と具体的な目標の確認
- ・介護実習中の留意点
- ・介護実習記録記載の留意点
- ・実習生個人票の作成
- ・介護実習壮行会での発表

### 【介護実習の事後学習】

「介護実習」を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて**統合**、**深化**させるとともに、自己の課題を明確にする。また、質の高い介護実践や**エビデンス（根拠）**の構築につながる**実践研究**の意義とその方法を理解し、専門職としての態度を養う内容とする。

\*具体的には

- ・お礼状の作成
- ・介護実習のまとめの作成
- ・介護実習報告書（事例報告）の作成
- ・介護実習報告会での発表

### 3 介護総合演習の年間計画

#### 2 学年

4～5月	9回	1. 介護実習の意義, 介護実習の概要, 介護実習Ⅰの目的・目標の理解 2. 介護実習に関する施設及び実習先の理解
5～7月	18回	3. 記録の意義, 介護実習記録の書き方 4. 実習生個人票の作成 5. 介護実習の事前学習 6. 介護実習に必要な用紙の準備と理解 7. 介護実習の心得と介護実習における留意事項の理解 8. 介護実習の評価についての理解 9. 介護実習壮行会
7～9月	介護実習Ⅰ	
9～11月	8回	10. お礼状の作成 11. 介護実習Ⅰの自己評価とまとめの作成
11～1月	25回	12. 介護実習Ⅰ報告書の作成と介護実習Ⅰ報告会の準備 13. 介護実習Ⅰ報告会
1～3月	3回	14. 介護実習Ⅱの目的・目標の理解(1)

#### 3 学年

4～5月	6回	1. 介護実習Ⅱの目的・目標の理解(2) 2. 介護過程の理解 3. 実習先の理解
5～6月	6回	4. 介護実習記録・介護過程記録用紙の書き方 5. 実習生個人票の作成 6. 実習に必要な用紙の準備と理解 7. 介護実習の心得と実習における留意事項の確認 8. 介護実習の評価についての理解 9. 介護実習壮行会
7～9月	介護実習Ⅱ	
9～11月	6回	10. お礼状の作成 11. 介護実習Ⅱの自己評価とまとめの作成
12～3月	14回	12. 介護実習Ⅱ報告書の作成と介護実習Ⅱ報告会の準備 13. 介護実習Ⅱ報告会

**演習** 「介護総合演習」の目標と学習内容をまとめよう。**知識・技術**

#### 到達目標

ガイドブック p1, 介護総合演習のねらいと学習内容をよく理解し, まとめることができている。

#### 記述例

「介護総合演習」は、「介護実習」の事前学習と事後学習を行い、「介護実習」を充実させるための科目である。介護福祉士になるための学習の中で「介護総合演習」と「介護実習」は非常に重要である。

事前学習では, 他の福祉の科目で学んだ知識や技術を再度確認して準備を行うことが必要である。また, 事後学習では, 「介護実習」を振り返り, 介護の知識や技術を実践と結びつけて, 根拠を明確にしてまとめを行う。

## 1 介護実習とは

「介護実習」は、介護の実践現場で実習指導者の助言や指導を受けながら、学校で学んだ介護の知識・技術・価値を統合して、利用者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する科目である。

また、利用者の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を展開する能力を養うことが求められている。

「介護実習」が行われるのは、介護福祉士はもちろん、多くの保健医療福祉の専門職が業務に従事し、実際の社会である。また、利用者はもちろん、家族との関係や地域の人々や他の機関との関係もある。そのような場所を学びの場として提供されることに感謝し、実習生として誠実に積極的に学ぶ態度や社会人としての基本的なマナーが求められる。

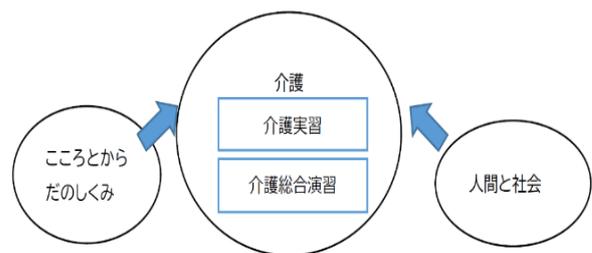
そして、「介護実習」は、利用者の生命、生活、人生、不安や苦悩、希望や安心、生きがい、終末期や死などを利用者と共に共有し、自分の死生観、人生観、介護福祉観などについて考えを深める貴重な機会となる。そのため、専門職としての高い倫理性の保持と温かい思いやりのある態度、利用者から学ぶ謙虚な姿勢が求められている。

### 【介護実習のねらい】（厚生労働省）

- (1) 地域におけるさまざまな場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。
- (2) 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

## 2 介護実習と介護福祉士資格取得時の到達目標

厚生労働省が2007年に示した「介護福祉士養成課程における教育内容の見直しについて」では、資格取得時に求められる介護福祉士養成の到達目標として11項目が明記された。この到達目標は、介護を必要とする幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる能力として、資格取得時の介護福祉士に求められている。到達目標を達成するために、介護福祉士の養成カリキュラムは3領域（「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」）を中心とした教育体系となっている。「介護総合演習」と「介護実習」は領域「介護」の中核となる科目で、3領域の知識と技術を統合して学ぶ科目である。介護福祉士養成の到達目標に対して「介護実習」ではどのようなことに留意して取り組むかを考える必要がある。



- 1.他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける
- 2.あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する
- 3.介護実践の根拠を理解する
- 4.介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる
- 5.利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる
- 6.介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的理解ができる
- 7.他の職種の役割を理解し、チームに参画する能力を養う
- 8.利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける
- 9.円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける
- 10.的確な記録・記述の方法を身につける
- 11.人権擁護の視点、職業倫理を身につける

**演習** 「資格取得時に求められる介護福祉士養成の到達目標の11項目」から、介護実習における自分の目標を考えよう。**思考・判断・表現**

**到達目標**

介護福祉士養成の到達目標の内容を理解し、選択した項目についてよくその意味を考えた上で、自分の具体的な行動を挙げながら目標が書けている。

**記述例**

- \*多くの利用者に関わる機会を持ち、その人に合った話題の提供や話し方を学ぶ。
- \*利用者と話すときは、利用者の思いに寄り添う非言語的コミュニケーションの図り方を学ぶ。
- \*利用者に対して、決めつけるような言い方をしないで、相手の意思を確認する。
- \*生活支援を行うときは、自立支援につながるような支援の方法を学ぶことを意識し、利用者が意欲を持てるような声かけについて学ぶ。
- \*介護職員の技術をよく見て、なぜその方法で行うのかを教えてもらい、利用者にあった介護技術を学ぶ。
- \*他の職種の職員に対してわからないことなどを質問する。
- \*記録は専門用語を使い、自分が学んだことを整理して丁寧に記述する。

### 3 介護実習の概要

「介護実習」は、さまざまな種類の実習施設で基本的な内容を学ぶ「実習施設・事業等Ⅰ」と個々の利用者のニーズに沿った生活支援を行うために介護計画を立てて実践する「実習施設・事業等Ⅱ」の2つに分かれている。2学年で行う「介護実習A」と「介護実習B」は「実習施設・事業等Ⅰ」、3学年で行う「介護実習C」は、「実習施設・事業等Ⅱ」に該当する。

「介護実習」では、慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、その人らしさを維持しながら生活する状況について学び、個別ケアを理解する。

そして、介護過程を展開し、利用者の状況に応じて生活支援技術を適切に使う必要性を理解し、知識や技術を統合して生活支援サービスが提供できる実践力を習得する。

#### 【有田中央高等学校の介護実習の構成】

実習施設・事業等の区分	実習施設・事業等Ⅰ		実習施設・事業等Ⅱ
実習名	介護実習A 地域での実習	介護実習B 基礎的な実習	介護実習C 実践力の養成と介護過程の展開
実習時期	第2学年7～8月	第2学年7～8月	第3学年7～8月
実習日数	16日	8日	28日
実習の場	通所介護事業所 認知症対応型老人共同 生活援助事業所	介護老人福祉施設 ／介護老人保健施設	介護老人福祉施設／介護老人保健施設
達成課題	利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行う		一つの施設・事業所等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践する


## 4 介護実習の場の理解

「介護実習」では、実習の行われる施設・事業所の働きや役割についてあらかじめ学習して知ることが必要である。

**演習** 次の1～10の施設・事業所について、表にまとめよう。

### 1 訪問介護

<b>利用する人 (対象)</b>	65歳以上の要支援・要介護の認定を受けた人、40歳以上で特定疾病による要介護・要支援の認定を受けた人が対象となる。要支援1・2の認定を受けた人は介護予防訪問介護の対象となる。
<b>サービスの概要</b>	訪問介護員が利用者の居宅を訪問し、家事援助、身体介護、相談援助、その他の生活全般にわたる支援を行う。主に日中訪問してサービスを提供する事業所と、早朝、夜間、深夜時間帯も含めて24時間対応して訪問サービスを提供する事業所がある。
<b>職員構成</b>	①管理者 ②サービス提供責任者 ③訪問介護員

### 2 デイサービスセンター(通所介護)

<b>利用する人 (対象)</b>	65歳以上の要支援・要介護の認定を受けた人、40歳以上で特定疾病による要介護・要支援の認定を受けた人が対象となる。また、要支援1・2の認定を受けた人は介護予防通所介護の対象となる。
<b>サービスの概要</b>	デイサービスセンターなどに通い、その施設において入浴、排泄、食事の介護、生活などに関する相談及び助言、健康状態の管理、その他居宅要介護者に必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行う。
<b>職員構成</b>	①管理者 ②生活相談員 ③看護職員 ④介護職員 ⑤機能訓練指導員

### 3 通所リハビリテーション(デイケア)

<b>利用する人 (対象)</b>	65歳以上の要支援・要介護の認定を受けた人、40歳以上で特定疾病による要介護・要支援の認定を受け、医師がその治療の必要を認めた人が対象となる。また、要支援1・2の認定を受けた人は介護予防通所リハビリテーションの対象となる。
<b>サービスの概要</b>	在宅で生活している利用者が介護老人保健施設、病院、診療所等に通い、心身の機能の維持回復や日常生活の自立を助けるために、理学療法、作業療法その他必要なリハビリテーションを受ける。
<b>職員構成</b>	①管理者 ②医師 ③理学療法士、作業療法士もしくは言語聴覚士又は看護職員もしくは介護職員

#### 4 特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)

<b>利用する人 (対象)</b>	要介護度3以上の認定を受けた65歳以上の第1号被保険者および40～64歳の第2号被保険者(特定疾病のため介護が必要)で、常に介護が必要で、自宅では介護ができない人が対象となる。
<b>サービスの概要</b>	施設サービス計画に基づき、入浴、排泄、食事等の介護その他の日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話をを行う。
<b>職員構成</b>	①医師 ②生活相談員 ③介護職員又は看護職員 ④栄養士 ⑤機能訓練指導員 ⑥介護支援専門員

#### 5 介護老人保健施設

<b>利用する人 (対象)</b>	要介護1～5までの65歳以上の第1号被保険者と特定疾病により要介護状態となった40～64歳の第2号被保険者で、病状が安定し、リハビリに重点をおいた介護が必要な方が対象となる。
<b>サービスの概要</b>	病院と施設、あるいは病院と在宅の中間施設である。2018年4月から、①リハビリテーションを提供することで機能維持・機能回復をなう施設、②在宅復帰支援と在宅療養支援のための地域の拠点となる施設、と定義が変わっている。施設サービス計画に基づいて、看護、医療的管理の下における介護および機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行う。
<b>職員構成</b>	①医師 ②薬剤師 ③看護職員又は介護職員 ④支援相談員 ⑤理学療法士又は作業療法士 ⑥栄養士 ⑦介護支援専門員

#### 6 養護老人ホーム

<b>利用する人 (対象)</b>	65歳以上で、環境上の理由および経済的理由により在宅において養護を受けることが困難な人である。
<b>サービスの概要</b>	生活環境や経済的に困窮した高齢者を養護し、社会復帰させる施設である。生活支援及び身体介護、相談・調整を行う。
<b>職員構成</b>	①施設長 ②医師 ③生活相談員 ④支援員 ⑤看護職員 ⑥栄養士

## 7 グループホーム(認知症対応型老人共同生活援助事業所)

<b>利用する人 (対象)</b>	主治医から認知症の診断を受けていること、要介護・要支援認定が要支援2以上であること、共同生活が可能であること、グループホームのある市町村に住んでいることが利用の要件となる。
<b>サービスの概要</b>	入所定員は5人以上9人以下である。介護サービスを受けながら、家庭的な雰囲気と地域住民との交流の下で、共同で生活する場所。食事・排泄・入浴の介護・掃除、洗濯など身の回りの衛生管理、健康管理、リハビリテーション、レクリエーションなどが行われる。利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を住み慣れた地域で継続できるよう支援することが目的である。
<b>職員構成</b>	①代表者 ②常勤管理者 ③計画作成者 ④介護従事者

## 8 小規模多機能型居宅介護

<b>利用する人 (対象)</b>	市町村に住所を有し、自宅で生活をしていて、要支援1～要介護5までの認定を受けている人である。
<b>サービスの概要</b>	地域で自立した日常生活が送れるよう、「通い」を中心に泊まり、訪問を組み合わせた介護サービスを提供する。「通い」「泊まり」「訪問」のそれぞれの場面で、食事、排泄、入浴といった日常生活の介護を行う。
<b>職員構成</b>	①代表者 ②常勤管理者 ③介護支援専門員 ④介護職員・看護職員

## 9 軽費老人ホーム(ケアハウス)

<b>利用する人 (対象)</b>	60歳以上で、身体機能の低下等により自立した日常生活を営むことについて不安があると認められる人であって、家族による援助を受けることが困難な人である。ある程度自分の身の周りのことができる人を対象としている。
<b>サービスの概要</b>	生活相談、入浴サービス、食事サービスの提供を行うとともに、車いすでの生活にも配慮した構造を有する「ケアハウス(C型)」、食事の提供や日常生活に必要な便宜を供与する「A型」、自炊が原則の「B型」がある。介護保険制度の居宅サービス(訪問介護・通所介護)を利用することができる。 食事の提供、入浴等の準備、相談および援助、社会生活上の便宜の供与、その他の日常生活上の便宜の供与を行う。
<b>職員構成</b>	①施設長 ②生活相談員 ③介護職員 ④栄養士 ⑤調理員

確認テスト 知識・技術

問題 次の(1)～(9)のサービスの概要に該当する施設・事業所名を書け。

- (1) 訪問介護員が利用者の居宅を訪問し、家事援助、身体介護、相談援助、その他の生活全般にわたる支援を行う。

訪問介護

- (2) 入所定員は5人以上9人以下である。介護サービスを受けながら、家庭的な雰囲気と地域住民との交流の下で、共同で生活する場所である。

グループホーム (認知症対応型老人共同生活援助事業所)

- (3) 地域で自立した日常生活が送れるよう、「通い」を中心に「泊り」、「訪問」を組み合わせた介護サービスを提供する。

小規模多機能型居宅介護

- (4) 施設サービス計画に基づき、入浴、食事、排泄などの介護、その他の日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話を行う。

特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設)

- (5) 施設に通い、入浴、排泄、食事の介護、生活に関する相談及び助言、健康状態の管理、その他の居宅介護者に必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行う。

デイサービスセンター (通所介護)

- (6) 生活相談、入浴サービス、食事サービスの提供を行うとともに、車いすでの生活に配慮した構造を有するC型、食事の提供や日常生活上必要な便宜を提供するA型、自炊が原則のB型がある。

軽費老人ホーム (ケアハウス)

- (7) 生活環境や経済的に困窮した高齢者を養護し、社会復帰させる施設である。生活支援及び身体介護、相談・調整を行う。

養護老人ホーム

- (8) 病院と施設、あるいは病院と在宅の中間施設である。2018年4月から、①リハビリテーションを提供することで機能維持・機能回復をになう施設、②在宅復帰支援と在宅療養支援のための地域の拠点となる施設、と定義が変わっている。

介護老人保健施設

- (9) 在宅で生活している利用者が介護老人保健施設、病院、診療所などに通い、心身の機能の維持回復や日常生活の自立を助けるために、理学療法、作業療法その他必要なリハビリテーションを受ける。

通所リハビリテーション (デイケア)

**演習** 介護実習を行う施設・事業所について調べよう。 **主体的に学習に取り組む態度**

**到達目標**

自分が実習を行う施設について調べた情報から必要な内容を選んで、項目ごとにまとめることができている。

**記述例**

施設名 グループホーム ○○

**【理念】**

グループホームでの生活は、家庭的な環境の中で、入浴・排泄・食事等の介護，その他の日常生活上のお世話や，機能訓練等を行うことにより，一人一人が持っている能力に応じ，自立した日常生活を営むことができるよう配慮いたします。

**【利用条件】**

要介護認定で，要支援2，要介護1～5と認定された方。

認知症状にある方。（激しい行動異常がある方や，疾患が急性の状態にある方を除く）

おおむね身の自立ができており，支障なく共同生活を送ることが出来る方

入院による治療が必要でない方

**【入居定員】** 18名 **【居室面積】** 15㎡

**【職員の人数】** 管理者2人 介護職員16人（介護福祉士7人） 計画作成担当者 2人

**【入居者の要介護度】**

要介護1：1人 要介護2：4人 要介護3：7人 要介護4：3人 要介護5：3人

**【入居者の男女比】** 男性1：女性9



## 5 多職種協働の理解

異なる専門性を持つ多職種が、それぞれの職種の能力を活用して対象者の生活支援を行うことで、より質の高いケアにつながる。それぞれの職種の専門性を理解するとともに、介護福祉士の専門性をより深く学習し、個別支援のあり方や職種間での連携・協働について理解することが必要である。

**演習** 次の専門職の業務についてまとめよう。

到達目標

他職種の業務について調べ、その内容を分かりやすくまとめることができている。

記述例

医師	病気・怪我の診断や治療・予防，リハビリテーションを行う。
看護師	医師の診察・指示に基づいて，患者の診療を補助したり，患者が入院生活を過ごしやすいよう日常生活の援助や看護を行う。具体的には，食事・排泄・入浴等の介助，患者移送，検温，体位交換，記録，巡回，ベッドメイキングなどである。
理学療法士	病気やケガで身体に障害を抱える人が，主に「起きる」「立つ」「歩く」といった基本的な動作を回復し，身体機能全般が向上するよう，各種療法を使ってサポートを行う。その手段には，運動療法，水中療法，温熱療法，電気・光線療法，マッサージなどがある。
作業療法士	心身に障害を抱える人を対象に，リハビリテーションを行い，応用動作能力・社会的適応能力を高めて，社会復帰を促す。日常生活の動作訓練，手芸・陶芸・園芸・絵画などの創作活動や，音楽・ゲーム・スポーツを利用した機能回復など，より実生活に近い動作の訓練によるサポートを行う。
言語聴覚士	「話す」「聴く」だけでなく，発声・発音，認知など，言語コミュニケーションに障害を抱えた人の機能回復をめざして指導・訓練を行う。
管理栄養士	病気で入院している人や，高齢で食事がとりづらい人など，個人の状態にあわせて食生活の管理を行う。栄養士は主に健康な人を対象として業務を行う。これに対して管理栄養士は，健康な人だけでなく，傷病者や特別の配慮が必要になる人々に対しても栄養指導が行えるだけの高度な専門的知識と技術を持っている。

<b>調理員</b>	管理栄養士・栄養士の作成した献立にもとづいて、利用者の食事をつくる。
<b>薬剤師</b>	薬局や医療機関(病院)で処方せんに基づく調剤や患者への服薬説明を行う。
<b>歯科医師</b>	虫歯・歯周病の治療や、歯列の矯正、インプラント手術など、口腔内における健康の管理を行う。
<b>歯科衛生士</b>	歯科医師の治療を補佐する。治療をサポートするだけでなく、患者に対して正しい歯磨きの仕方を指導するなど、予防・健康維持も行う。
<b>福祉用具専門相談員</b>	福祉機器や介護用具を購入する際に、上手な選び方や使い方について専門的なアドバイスをする相談員である。
<b>生活相談員</b>	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、短期入所生活介護(ショートステイ)、通所介護(デイサービス)にて入所から生活まで相談援助・指導業務を行う専任の職員(ソーシャルワーカー)である。
<b>支援相談員</b>	介護老人保健施設やデイケアにおいて、相談援助・指導業務を行う専任の職員(ソーシャルワーカー)である。
<b>介護支援専門員</b>	利用者やそのご家族と相談し、どんな介護を必要としているのかを見極め、最適なケアプラン(介護サービス計画書)を作成し、自治体や業者との調整を行う職種である。ケアマネジャーとよばれる。

確認テスト **知識・技術**

**問題** 次の(1)～(9)の業務に該当する職種を書け。

- (1) 医師の診察・指示に基づいて、患者の診療を補助したり、患者が入院生活を過ごしやすいよう日常生活の援助や看護を行う。

看護師

- (2) 心身の障害を抱える人を対象に、リハビリテーションを行い、応用動作能力・社会的適応能力を高めて、社会復帰を促す。日常生活の動作訓練、創作活動、音楽やゲームなどを利用した機能回復などより実生活に近い動作の訓練によるサポートを行う。

作業療法士

- (3) 薬局や医療機関で処方せんに基づく調剤や患者への服薬説明を行う。

薬剤師

- (4) 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、短期入所生活介護、通所介護にて入所から生活まで相談援助・指導業務を行う。

生活相談員

- (5) 利用者やその家族と相談し、どんな介護を必要としているのかを見極め、最適なケアプランを作成し、自治体や業者との調整を行う。

介護支援専門員（ケアマネジャー）

- (6) 福祉機器や介護用具を購入する際に、上手な選び方や使い方について専門的なアドバイスをする。

福祉用具専門相談員

- (7) 病気やけがで身体に障害を抱える人が、主に「立つ」「起きる」「歩く」といった基本的な動作を回復し、身体機能全般が向上するよう、各種療法を使ってサポートをする。

理学療法士

- (8) 「話す」「聞く」だけではなく、発生・発語・認知など、言語コミュニケーションに障害を抱えた人の機能回復を目指して指導・訓練を行う。

言語聴覚士

- (9) 病気で入院している人や、高齢で食事がとりづらい人など、個人の状態に合わせて食生活の管理を行う。健康な人だけではなく、傷病者や特別な配慮が必要になる人に対しても栄養指導が行えるだけの高度な専門知識と技術を持っている。

管理栄養士

## 6 地域とのつながりの理解

### 【地域における生活】

私たちは、欲しい品物があれば、気に入った商店に行って自分で選んで買っている。買いものをする店が決まっているという暮らしの中の**こだわり**、自分の好きなものを買うという**自己選択・自己決定**は地域において自立して生活するため大切なことの1つの例である。

また、地域での生活に**“つながり”**は欠かせないものである。多くの人は、家族や近所との関係にとどまらず、地域のさまざまな人（機関）とつながって暮らしている。利用者にもさまざまなつながりがあり、それらは利用者の人生や生活の継続性という視点から尊重すべきものである。買い物の例でいうと、商店で買い物をして会話をすることがどういう意味を持っているのか、商店の人が利用者をどのように支援してくれているのか、つながりを継続するにはどうしたらよいかなどを考える必要がある。

### 【地域と実習施設】

「介護実習」を行う施設は地域の中の施設である。行事、ボランティア等の受け入れ、施設職員の地域行事等への参加から、施設と地域のコナガリや施設の地域化及び社会化について理解し、地域と実習施設がどのように支え合っているかを学ぶことが求められる。

施設で生活している人も**地域の住民**であることを認識し、利用者が**地域の中で暮らしている**という自覚を持ち続けられるようにすることや実習施設のある地域の特性やその地域ならではの文化や行事を知ることにも介護福祉士の役割の1つである。そして、介護福祉士が利用者と地域を結びつけることで、利用者が地域の一員として生活できるよう配慮する必要がある。「介護実習」では、デイサービスの送迎の機会を利用し地域の様子を観察するように努める必要がある。また、施設や事業所で開催される行事やイベントの企画や運営にも可能であれば参加する。そして、地域で開催されるイベントに参加する利用者に同行し、幅広い視点での生活支援技術について学ぶこともよい経験になる。

### 【実習施設で学ぶ内容例】

- ・施設の行事などに地域の人たちがどのように関わっているか。
- ・利用者や職員が地域のイベントに参加しているか。
- ・小学生や中学生の体験学習等の受け入れはどうか。
- ・ボランティアの受け入れの状況はどうか。
- ・地域の人たちと共同で行っていることは何か。
- ・施設の運営や利用者の支援にボランティアを受け入れているか。

**演習** 実習施設と地域の連携の例を調べよう。主体的に学習に取り組む態度

到達目標

施設と地域のつながりに関する具体例を2つ以上調べ、分かりやすく記述できている。

記述例

福祉ネットワーク「シリーズ」認知症の介護施設は今」(2) (2008年7月15日放送)

加賀市は、認知症のお年寄りが地域とつながりを保って暮らし続けられるよう、地域と介護施設との連携を進めています。街の中心部に小規模養護老人ホームをつくるため、市は用地探しに協力する一方、地域への貢献をもりこんだマニフェストを作成して住民に説明するよう、事業者に求めました。介護施設が学校帰りの子どもたちを預かるなど、積極的に地域と関わることで、住民たちも施設を知り、安心して受け入れています。

明日へ 支えあおう 復興サポート”楽しい介護”で豊かな地域をつくろう ～宮城・気仙沼市 Part2～  
(2015年10月18日放送)

兵庫県尼崎市にある特別養護老人ホームでは、多くのボランティアが運営に参加しています。そのひとり、坂本敬子さんは、入居者だけでなく職員にも頼りにされる大ベテラン。「ボランティアで地域を住みよくすれば自分のためになる」と気がついた坂本さんは、施設の外でも、一人暮らしの高齢者の見守りや交流サロンなど、地域活動を始めました。安心して暮らせる地域を自分たちの手でつくる楽しさは、下の世代にも引き継がれています。

## 7 実習施設ごとの目標と展開

### 1 認知症対応型老人共同生活援助事業所 介護実習A

- (1) 認知症対応型老人共同生活援助事業所に対する理解を深める。
- (2) 利用者の生活や生活課題を理解する。
- (3) 利用者と適切にコミュニケーションを図る。
- (4) 安全・安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた生活支援技術を実践する。
- (5) 介護職員の役割、多職種との連携および地域とのつながりを理解する。
- (6) 介護福祉士としての基本的な態度を身につける。
- (7) 記録の目的や意義について理解し、適切に記述できる。

実習日	展開
1～2 日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の概要を把握し、介護実習オリエンテーション記録にまとめる。</li> <li>・利用者に挨拶と自己紹介を行い、実習生として適切な態度でコミュニケーションを図る。</li> <li>・介護職員の利用者に対する生活支援や他の業務について学び、実習記録にまとめる。</li> </ul>
3～8 日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状態やその場の状況に応じたコミュニケーションを実践し、学んだことを実習記録に記載する。</li> <li>・利用者の生活の状況やニーズ、提供されている生活支援を把握し、実習記録に記載する</li> <li>・職員の指導を受けながら可能な範囲で生活支援を実践し、学んだ内容を実習記録に記載する。</li> <li>・中間カンファレンス及び最終カンファレンス（介護実習反省会）を行い、カンファレンスで学んだことを記録にまとめる。</li> </ul>

### 2 通所介護事業所 介護実習A

- (1) 通所介護事業所に対する理解を深める。
- (2) 利用者との適切なコミュニケーションを図る。
- (3) 集団援助と個別援助のあり方を理解する。
- (4) 安全・安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた適切な生活支援技術を学ぶ。
- (5) 介護職員の役割、多職種との連携および地域とのつながりを理解する
- (6) 介護福祉士としての基本的な態度を身につける。
- (7) 記録の目的や意義について理解し、適切に記述できる。

実習日	展開
1～2 日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の概要を把握し、介護実習オリエンテーション記録にまとめる。</li> <li>・利用者に挨拶と自己紹介を行い、実習生として適切な態度でコミュニケーションを図る。</li> <li>・介護職員の利用者に対する生活支援や他の業務について学び、実習記録にまとめる。</li> </ul>
3～8 日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状態やその場の状況に応じたコミュニケーションを実践し、学んだことを実習記録に記載する。</li> <li>・利用者の生活の状況やニーズ、提供されている生活支援を把握し、実習記録に記載する。</li> <li>・施設のレクリエーションへの参加や計画したレクリエーションの実施により、利用者の心身の状態に応じた楽しく過ごしてもらうための支援技術について学び、実習記録に記載する。</li> <li>・職員の指導を受けながら可能な範囲で生活支援を実践し、学んだ内容を実習記録に記載する。</li> <li>・中間カンファレンス及び最終カンファレンス（介護実習反省会）を行い、カンファレンスで学んだことを記録にまとめる。</li> </ul>

### 3 介護老人福祉施設・介護老人保健施設（2学年）介護実習B

- (1) 介護老人福祉施設もしくは介護老人保健施設に対する理解を深める
- (2) 利用者の生活や生活課題を理解する
- (3) 利用者と適切にコミュニケーションを図る
- (4) 安全・安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた生活支援技術を実践する
- (5) 介護職員の役割、多職種との連携および地域とのつながりを理解する
- (6) 介護福祉士としての基本的な態度を身につける
- (7) 記録の目的や意義について理解し、適切に記述できる。

実習日	展 開
1～2 日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の概要を把握し、介護実習オリエンテーション記録にまとめる。</li> <li>・利用者に挨拶と自己紹介を行い、実習生として適切な態度でコミュニケーションを図る。</li> <li>・介護職員の利用者に対する生活支援や他の業務について学び、実習記録にまとめる。</li> </ul>
3～8 日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状態やその場の状況に応じたコミュニケーションを実践し、学んだことを実習記録に記載する。</li> <li>・利用者の生活の状況やニーズ、提供されている生活支援を把握し、実習記録に記載する</li> <li>・職員の指導を受けながら可能な範囲で生活支援を実践し、学んだ内容を実習記録に記載する。</li> <li>・中間カンファレンス及び最終カンファレンス（介護実習反省会）を行い、カンファレンスで学んだことをまとめる。</li> </ul>

演習 目標を達成するために自分が行うことをまとめよう。知識・技術

到達目標

介護実習の目標をよく理解した上で、どのような取り組みが必要か考えることができている。

記述例

#### 認知症対応型老人共同生活援助事業所

認知症のある高齢者とのコミュニケーションの図り方を職員の言動から学び、その人に合ったコミュニケーションを図るようにする。グループホームでの利用者の生活の様子をよく見て記録する。利用者の状態に応じた生活支援技術を指導を受けて行う。利用者の生活をどのようにして尊重しているかを学んで記録する。メモをとり、指導してもらった内容を記録に残して、次の行動に生かすようにする。

#### 通所介護事業所

レクリエーションなどで集団とのコミュニケーションの図り方を職員の言動から学び実践する。家庭から通所している利用者の生活の様子をよく見て記録する。利用者の状態に応じた生活支援技術を指導を受けて行う。メモをとり、指導してもらった内容を記録に残して、次の行動に生かすようにする。

#### 介護老人福祉施設・介護老人保健施設

高齢者の個別性に配慮したコミュニケーションの図り方を職員の言動から学び、その人に合ったコミュニケーションを図るようにする。入所施設での利用者の生活の様子をよく見て記録する。利用者の状態に応じた生活支援技術を指導を受けて行う。利用者に必要な生活支援技術の内容を学ぶ。メモをとり、指導してもらった内容を記録に残して、次の行動に生かすようにする。

#### 4 介護老人福祉施設・介護老人保健施設（3学年）**介護実習C**

- (1) 傾聴・受容・共感の技法を用いて、利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを図る。
- (2) 安全と安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた適切な生活支援技術を実践する
- (3) 一人の利用者についてICFの視点で全体像をとらえ、アセスメントを行う。
- (4) 個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた介護計画を立案する。
- (5) 介護計画に基づき、適切に生活支援の実践、評価および修正を行う。
- (6) 多職種との協働を図る。
- (7) 介護福祉士としての基本的な態度を身につける。
- (8) 記録の目的や意義について理解し、適切に記述できる。

実習日	展開
1～8 日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の概要を把握し、介護実習オリエンテーション記録にまとめる。</li> <li>・利用者に挨拶と自己紹介を行い、実習生として適切な態度でコミュニケーションを図る。</li> <li>・介護職員の利用者に対する生活支援や他の業務について学び、実習記録にまとめる。</li> <li>・職員の指導を受けながら可能な範囲で生活支援を実践し、学んだ内容を実習記録に記載する。</li> <li>・実習指導者の指導を受けながら担当する利用者を決定し、利用者とのコミュニケーションを図りながら情報収集を行う。</li> </ul>
9～ 16日 目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の個別性をふまえたサービスがどのように提供されているか把握する。</li> <li>・職員の指導を受けながら可能な範囲で生活支援を実践し、学んだ内容を実習記録に記載する。</li> <li>・担当の利用者のアセスメントを行い、検討会の助言をふまえて内容を修正する。</li> </ul>
17～ 28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習指導者の指導を受けて、担当の利用者の介護計画を立案し、それに基づいた生活支援を実施する。また、生活支援の実施について評価し、記録用紙に記載した上で必要があれば計画を修正する。</li> <li>・介護過程検討会や最終カンファレンス（介護実習反省会）を行い、学んだことを記録にまとめる。</li> </ul>

**演習** 目標を達成するために自分が行うことをまとめよう **知識・技術**

到達目標

介護実習の目標をよく理解した上で、どのような取り組みが必要か考えることができている。

記述例

#### 介護老人福祉施設・介護老人保健施設

利用者に応じた生活支援技術が行われている場面を観察する。

その人に合ったコミュニケーションを図るようにする。利用者の状態に応じた生活支援技術を指導を受けて行う。

メモをとり、指導してもらった内容を記録に残して、次の行動に生かすようにする。

担当の利用者とのコミュニケーションを図り、情報収集を行い、その情報から課題を見いだして、介護計画、実施、評価、修正といった介護過程に沿って実践し、記録用紙にまとめる。

## 8 介護実習に関する書類

### 1 実習前

項目	取り扱い
実習生個人票	<input type="checkbox"/> 担当教員に確認してもらい提出する。
介護実習出席簿・ 介護実習評価表	<input type="checkbox"/> 介護実習出席簿の氏名，実習施設名，実習日を記入する。 <input type="checkbox"/> 介護実習評価表の氏名，実習施設名を記入する。 <input type="checkbox"/> 担当教員に提出し，確認を受ける。
レクリエーション実施 計画書（2学年のみ）	<input type="checkbox"/> 担当教員の指導を受けて作成し，ファイルに挟んでおく。

### 2 実習中

項目	取り扱い
介護実習出席簿	<input type="checkbox"/> 出席した日に捺印する。 <input type="checkbox"/> 保管場所等は，介護実習オリエンテーション等で実習指導者に確認する。
介護実習オリエン テーション記録	<input type="checkbox"/> 介護実習オリエンテーション記録は，できるだけ初日に実習指導者（施設職員）に提出する。
介護実習記録（毎 日の記録）	<input type="checkbox"/> 介護実習記録は，前日までに「本日の目標」及び「介護実習計画」を記入する。 <input type="checkbox"/> 介護実習記録は，昼と実習後の時間で作成し，その日の実習終了時に実習指導者（施設職員）に提出する
介護実習項目チ ェックリスト	<input type="checkbox"/> 介護実習項目チェックリストは，該当する項目の経験回数を正の字で記入する。 <input type="checkbox"/> 介護実習項目チェックリストから，経験がない又は少ない項目を実習指導者（施設職員）に伝え，できるだけ実施できるよう努める。
レクリエーション実施 計画書（2学年のみ）	<input type="checkbox"/> レクリエーション実施前に記入し，実施後は成果と課題をまとめ，最終カンファレンスで教員に提出する。
中間カンファレンス （2学年のみ）	<input type="checkbox"/> 中間カンファレンスのまとめを記入して，カンファレンスに参加する。
介護過程記録用 紙（3学年のみ）	<input type="checkbox"/> 介護過程記録用紙は実習指導者（施設職員）の指導のもと作成し，介護過程の振り返りを記入してから最終カンファレンスで教員に提出する。
最終カンファレ ンス（介護実習反 省会）のまとめ	<input type="checkbox"/> 最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめを記入して，カンファレンス参加する。 <input type="checkbox"/> 最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめは実習終了時に実習指導者（施設職員）に提出する。
介護実習自己評価	<input type="checkbox"/> 自己評価を記入しておき，介護実習終了後に担当教員に提出する。
実習終了時	<input type="checkbox"/> 記録用紙の提出方法を実習指導者（施設職員）に確認する。

### 3 実習終了後

項目	取り扱い
お礼状	<input type="checkbox"/> 個人で作成し，担当教員に確認してもらい，施設ごとに封筒に入れて郵送する。
介護実習のまとめ	<input type="checkbox"/> 所定の記録用紙に記入し，実習担当教員に確認してもらい提出する。
介護実習報告書	<input type="checkbox"/> 実習担当教員の指導を受けて，電子データで作成し，提出する。

## 9 実習指導とカンファレンス

### 1 実習指導者による実習指導

- (1) 実習開始前に「介護実習記録」（「本時の目標」及び「介護実習計画」）を通して指導を受ける。
- (2) 実習指導者（施設職員）の利用者への関わり方や生活支援技術を見学する。
- (3) 実習指導者（施設職員）に質問を行い、指導・助言を受ける。
- (4) 介護実習記録に実習指導者（施設職員）のコメントをていねいに読み、今後の実習に生かすようにする。

### 2 カンファレンスについて

- (1) 事前に発表内容を整理して記録用紙に記載しておく。
- (2) カンファレンスの中で助言や指導を受けた内容をメモに書いておき、記録用紙にまとめること  
で、介護実習での学びを深める。
- (3) 他のメンバーに対する指導や助言であっても、メモに書いておき、記録用紙にまとめる。
- (4) カンファレンスでは、自分の意見を持って、自分の言葉で考えや感じたことを発言することが大切である。できるだけ、具体的な発表内容になるよう準備しておく。
- (5) 事前準備として、実習生同士で役割と進行方法を決める。
- (6) 進行方法について
  - ・開会の挨拶を行う。（介護実習の御礼、カンファレンス参加の御礼、発表内容や進行方法の説明など）
  - ・発表は、実習生1人5分程度とする。
  - ・実習指導者（施設職員）及び担当教員からコメントをもらう。
  - ・閉会の挨拶を行う（まとめ、介護実習の御礼、反省会参加の御礼など）

#### (1) 中間カンファレンス（2学年）

<b>位置づけ</b>	教員が巡回指導時に行うグループ指導を「中間カンファレンス」と呼ぶ。中間カンファレンスでは、実習生が自分の状況を事前に整理しておくことが大切である。
<b>日時</b>	実習指導者と巡回担当教員が調整し日時を決定する。
<b>進行方法</b>	実習生が司会進行を務める。
<b>準備資料</b>	資料の準備（事前に「中間カンファレンスのまとめ」を作成しておく。） 【内容】 (1) 介護実習で学んだこと 介護実習を経験して考えたり感じたことやその理由を記入する。 施設の概要や介護職員の業務、コミュニケーション、生活支援技術、利用者の心身の状態、利用者の生活の状況などの観点から書くことができる。 (2) 介護実習でうまくいかなかったことやその理由 利用者との関わりや生活支援技術の実施などで、課題になったことをできるだけ具体的に書く。 (3) 介護実習に関して疑問に思うこと

	<p>施設の概要や介護職員の業務，コミュニケーション，生活支援技術，利用者の心身の状態，利用者の生活の状況などの観点から書くことができる。</p> <p>(4) 利用者の生活支援技術について気づいたこと 生活支援技術の実践から学んだことや介護実習で改めて気づいた留意点などを具体的に書く。</p> <p>(5) 実習目標の達成に向けて努力していることやこれから努力したいこと</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## (2) 最終カンファレンス（介護実習反省会）（2学年）

<b>位置づけ</b>	介護実習の最終的なまとめとして，実習指導者や施設職員，担当教員が参加して指導・助言を行うものである。実習生は介護実習での学びをよく整理し，介護実習の成果と課題が発表できるよう準備してから望む必要がある。
<b>日時</b>	介護実習最終日もしくは介護実習最終日前に行う。実習指導者と巡回担当教員が調整し日時を決定する。
<b>進行方法</b>	実習生が司会進行を務める。
<b>準備資料</b>	<p>資料の準備（事前に「最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめ」を作成しておく。）</p> <p>【内容】</p> <p>(1) 介護実習目標— 毎日の目標の中から主なものを2～3例挙げる。</p> <p>(2) 目標を達成するために努力したこと— 目標達成のために，介護実習で取り組んだ内容，考えたこと，学んだことを具体的に書く。</p> <p>(3) 目標の達成状況— 目標が達成できたかどうかを具体的な理由をふまえて書く。</p> <p>(4) 利用者の生活支援技術についてのまとめ— 生活支援技術の実践から学んだことや介護実習で気づいた留意点などを具体的に書く。</p> <p>(5) 今後の課題や抱負 今後の学習や実習において，何について学んでいくか，どういうことに留意して学んでいくか具体的に書く。また，今回の介護実習での学びを，今後どのように生かしていきたいかを書く。</p>

## (3) 介護過程検討会（3学年）

<b>位置づけ</b>	介護過程の一連の流れに沿って，利用者の状況や心身の状態を十分にふまえた情報収集とアセスメント，利用者に適した介護計画の立案と実施，適切な評価と計画の修正等が行われているか確認するためのものである。実習生は事前に記録用紙を整理し，課題を明らかにしておく必要がある。（中間と後半の2回実施する）
<b>日時</b>	実習指導者と巡回担当教員が調整し日時を決定する。
<b>進行方法</b>	実習生が司会進行を務める。
<b>準備資料</b>	<p>資料の準備（事前に「介護過程記録用紙」に記入しておく。）</p> <p>【内容（中間の検討会）】</p> <p>(1) フェイスシートに，情報収集が必要な内容を付箋紙等で記入しておく。</p> <p>(2) アセスメントシートの内容について，検討が必要な部分を付箋紙等で記入しておく。</p> <p>(3) 介護計画が利用者の願いや希望に添ったものとなっているか，また，実施可能かどうかを検討し，付箋紙等で記入しておく</p> <p>【内容（後半の検討会）】</p> <p>(1) 介護計画の実施状況を記入しておく。</p> <p>(2) 利用者の反応や変化などをふまえ，実践した支援の評価を記入しておく。</p> <p>(3) 介護計画等の修正があれば，記入しておく。</p>

#### (4) 最終カンファレンス（介護実習反省会）（3学年）

位置づけ	介護実習の最終的なまとめとして、実習指導者や施設職員、担当教員が参加して指導・助言を行うものである。実習生は介護実習での学びをよく整理し、介護実習の成果と課題が発表できるよう準備してから望む必要がある。
日時	介護実習最終日もしくは、介護実習最終日前に行う。実習指導者と巡回担当教員が調整し日時を決定する。
進行方法	実習生が司会進行を務める。
準備資料	資料の準備（事前に「最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめ」に記入しておく。） 【内容】 （1）介護実習目標—毎日の目標の中から介護過程に関するものを2～3例挙げる。 （2）目標を達成するために努力したこと—介護過程の目標達成のために取り組んだ内容と学んだことを書く。 （3）目標の達成状況—介護過程を振り返り、目標が達成できたかどうかとその理由を書く。 （4）今後の課題や抱負—今後の学習や実習において、学びたいことを具体的に書く。また、今回の介護実習での学びを、今後どのように生かしていきたいかを書く。

**演習** カンファレンスの意義についてまとめよう。 **知識・技術**

到達目標

カンファレンスの意義について自分が理解できた内容をまとめることができている。

記述例

介護実習で学んだことを整理する。  
成果と課題を発表し、実習指導者から助言をもらう。

**演習** カンファレンスの準備として行うことをまとめよう **知識・技術**

到達目標

介護実習のカンファレンスにどのような準備をする必要があるか、まとめることができている。

記述例

介護実習で学んだことを振り返り、実践した内容や指導を受けた内容から、具体的にまとめておく。  
介護実習の目標達成のために取り組んだ内容とどの程度達成されたかをまとめておく。  
介護実習の成果と課題について具体的にまとめておく。

# 最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめ

有田中央高等学校 年 氏名：

施設名

【介護実習目標】

【目標を達成するために努力したこと】

【介護実習を通して学んだり考えたこと】

【今後の課題や抱負】(今回の介護実習での学びを、今後どのように生かしたいか)



## 実習生個人票【 学年】

<b>【実習生徒】</b> 和歌山県立有田中央高等学校      学年  ふりがな 氏 名		
<b>【施設までの交通手段と所要時間】</b>		
<b>【福祉を学んで考えたこと】</b>	<b>【趣味・特技】</b>	
<b>【高校生活で頑張っていること】</b>	<b>【長所】</b>	
<b>【介護実習の抱負】</b>		

### Ⅲ 介護実習の事前学習

#### Ⅰ 生活支援技術の手順と留意点

**演習** 生活支援技術の留意点と手順をまとめよう **思考・判断・表現**

到達目標

介護実習で必要な生活支援技術の知識（手順や留意点）を調べ、分かりやすくまとめることができている。

記述例

ボディメカニクス	1 事前に介護者の立つ位置，物品の置き場所，ベッドの高さ等に配慮する。
ス	2 利用者にできるだけ近づく。
	3 対象を小さくまとめる。
	4 支持基底面積を広くとる。
	5 膝を曲げ重心を下げ，骨盤を安定させる。
	6 足先を動作の方向に向ける。
	7 大きな筋群を使う。
	8 水平に移動する。
	9 てこの原理を活用する。
ベッドメイキング	1 必要物品の確認をし，リネン類を使う順にそろえる。
グ	2 キャスターとストッパーを確認する。
	3 ベッドの高さを調整する。
	4 シーツを手早くきれいに広げる。
	5 三角コーナーを崩れないようにつくる。
	6 シーツのしわ，たるみをつくらない。
	7 ボディメカニクスを活用する。
シーツ交換	1 状況・目的を説明して，同意を得る。
	2 換気に配慮し，環境を整える。

	3 転落防止のため、サイドレールなどを使用し、安全に配慮する。
	4 汚れたシーツを小さくまとめ、包み込むようにし、ベッド上のゴミを取りのぞく。
	5 新しいシーツを中央を一致させて置き、残り半分は扇子たたみにし、汚れたシーツ下に入れ込む。
	6 ほこりやゴミが飛散しないように汚れたシーツを取り除き、しわ、たるみがないよう、新しいシーツに交換する。
	7 利用者の負担が少ないよう配慮し、安楽な体位をとってもらい、寝心地を確認する。
衣服着脱の介護	1 利用者に状況・目的を説明し、協力・同意を得る。
(前開き衣服)	2 プライバシー保護のためにスクリーン等を使い、利用者に配慮する。
	3 体調や気候に配慮しながら、利用者の好みの衣服をえらんでもらう。
	4 上着を脱ぐときは、ボタンを外して、患側の肩部分を少し下げる。
	5 健側の袖を全部脱ぎ、最後に患側も脱いでもらう。
	6 着る前に、衣服の袖をたぐり寄せて、開口部を広くしておく。
	7 上着を着る時は、患側に袖を通して、肩から首まで着てもらう。
	8 健側の袖を通し、両肩を整えボタンを掛け、裾を整える。
	9 利用者に声かけを行いながら自立支援を促す。
	10 安全や着心地に配慮する。
衣服着脱の介護	1 利用者に状況・目的を説明し、協力・同意を得る。
(かぶり衣服)	2 プライバシー保護のためにスクリーン等を使い、利用者に配慮する。
	3 体調や気候に配慮しながら、利用者の好みの衣服をえらんでもらう。

	4 上着の前身頃を胸まで、後ろ身頃をできるだけ肩の方まで引き上げる。
	5 上着を脱ぐ時は、健側の脇の下から手を入れて肘を抜くように健側を脱ぎ
	、次に頭部を抜いて患側の肩、腕の順で脱いでもらう。
	6 上着を着る時は、患側の衣服を袖口からたぐり寄せて持ち、頭を通し、健側の
	袖を通し、袖を整える。
	7 ズボンを脱ぐときは、健側の膝を立て腰を浮かせて健側、患側の順にズボンを
	脱いでもらう。
	8 ズボンを着るときは、患側の踵を保護しながら患側のズボンを通し引き上げ
	次に健側のズボンを通し引き上げる。
	9 利用者に声かけを行いながら自立支援を促し、安全や着心地に配慮して、脱い
	だり着たりする。
移乗・移動の	【上方移動】
介護 ①ベッド	1 利用者に状況・目的を説明し、協力・同意を得る。
上での移動	2 枕を外し、利用者の両手を腹部で組む。
	3 利用者の膝を立てる。
	4 頭に近い方の手を利用者の肩甲骨部に入れる。
	5 もう片方の手は、腰部又は大腿部に入れる。
	6 声かけをしながら、利用者の足を床方向に踏ん張ってもらい、両方の腕で
	利用者をしっかり支えながら頭の方へ移動してもらう。
	7 介護者は、重心を利用者の足の方から頭の方へ移動させながら、自分の体重移
	動を行う。
	8 寝具等を利用者が気持ちのよいように整え直し、安楽と安全を確認する。
	9 ボディメカニクスを活用した姿勢・動作で行う。

	【水平移動】
	1 利用者に状況・目的を説明し，協力・同意を得る。
	2 枕を手前に寄せ，利用者の両手を腹部で組む。
	3 利用者の膝を立てる。
	4 介護者の肘関節で利用者の首を支え，手のひらで肩甲骨を支える。
	5 介護者の反対の腕をベッドにつき，それを支柱にして利用者の上半身を持ち上げて手前に移動してもらう。
	6 介護者は利用者の頭に近いほうの手を利用者の腰の下に入れる。
	7 介護者の両膝をベッドサイドにつけ，腰を下に落とすようにし，利用者を手前に引きながら移動する。
	8 寝具等利用者が気持ちよいように整え直し，安全で安楽な体位か確認し，声掛けをする。
	9 ボディメカニクスを活用した姿勢・動作で行う。
移乗・移動の	1 利用者に状況・目的を説明し，協力・同意を得る。
介護 ②体位	2 利用者が寝返る側の反対側に回り，利用者をおベッドの片側に寄せる。
変換（仰臥位から側臥位）	3 利用者の頭部を支えながら，枕を寝返る側に寄せる。
	4 横になったときに腕を敷き込まないように，利用者の両手を胸部，又は腹部の上に置く。
	5 膝を立てるか組んでももらう。
	6 肩と膝に手をあて，手前に回転してもらう。
	7 体調と利用者の安全を確認する。
	8 自立支援を考慮した声かけをする。

	9 ボディメカニクスを活用した姿勢・動作で行う。
移乗・移動の	1 利用者に状況・目的を説明し，協力・同意を得る。
介護 ②体位	2 利用者の両腕を組み，両膝を曲げて立ててもらう。
変換（仰臥位か	3 利用者の肩と膝を支え，利用者に横向きになってもらう。
ら側臥位）	4 片方の手を利用者の肩甲骨部に回し，もう一方の手で両膝を支える。
	5 先に利用者の足をベッドから下ろしてもらう。（一例）
	6 ベッドは利用者の両足の足底が床につく高さに調整する。
	7 利用者の手はベッドについて，安定した姿勢をとってもらう。
	8 体調と利用者の安全を確認する。
	9 ボディメカニクスを活用した姿勢・動作で行う。
移乗・移動の	1 利用者に状況・目的を説明し，協力・同意を得る。
介護 ③ベッド	2 車いすの安全点検をし，ベッドと車いすの角度が15～20度前後になるよう
から車いす	に置く。
	3 車いすのストッパーをかけ，フットサポートを上げる。
	4 利用者にベッドに浅く腰掛けてもらい，端座位になってもらう。利用者の足底
	が床に着いていることを確認する。
	5 利用者の麻痺側を保護しながら前傾姿勢を取ってもらい，膝折れ防止のため，
	介護者の膝で支えながら，健側の足を軸にして立ち上がってもらう。
	6 ゆっくりと方向転換してもらい，殿部を車いすの方に向けてもらう。
	介護者は利用者と一緒に腰を下ろし，車いすに深く座ってもらう。
	7 利用者の足をフットサポートに乗せてもらう。
	8 利用者の体調や気分を確認する。
	9 声かけをしながら自立支援を促す。

	10 ボディメカニクスを活用した姿勢・動作で行う。
移乗・移動の	1 利用者に状況・目的を説明し，協力・同意を得る。
介護 ④杖歩行	2 利用者に合った種類の杖を選ぶ。
	3 杖の長さが適当か確認する。杖の先端のゴムがすり減っていないか確認する。
	4 利用者の健側の手で杖を持ってもらう。
	5 利用者の麻痺側のやや斜め後ろに立つ。
	6 杖を一步前に出し，麻痺側の足を出し，次に健側の足を出すように声かけをする。
	7 階段の上りは，杖を先に出し，続いて健側の足を踏みだし，最後に麻痺側の足を引き上げてもらうよう声かけをする。介護者は麻痺側の一段後に立つ。
	8 階段の下りは，杖を先に下ろし，続いて麻痺側の足を下ろし，最後に健側の足を下ろしてもらうよう声かけをする。介護者は麻痺側の一段前に立つ。
	9 利用者の状態を観察しながら，安全にゆったりした雰囲気歩く。
移乗・移動の	1 利用者に状況・目的を説明し，協力・同意を得る。
介護 ⑤車いす	2 利用者の好みや健康状態・天候等に配慮した靴や服装にする。
での移動	3 車いすの事前点検を行う。
	4 利用者の手足の位置を確認し，安全・安楽な体位で車いすに座っているか確認する。
	5 両手でハンドグリップを深くしっかりと握り，前後左右に注意してゆっくり押す。
	6 段を上がる時は，車いすを前向きで段に近づけ，テッピングレバーを踏んでキャスターを上げ，段にのせ後輪を押し上げる
	7 段差を下りるときは，後ろ向きになり，後輪を降ろしキャスターを上げた状態

	で後ろに引いてゆっくりと下ろす。
	8 上り坂では、介護者の体を少し前傾にして一步一步確実に押し上げる。
	9 急な下り坂では、後ろ向きで、車いすを支えながら下りる。
	10 静止しているときは、両側のブレーキを掛ける。
	11 利用者に不安を与えない声かけをし、状態や安全を確認しながら行う。
食事の介護	1 利用者に状況・目的を説明し、協力・同意を得る。
①食事の介助	2 手を洗い、身仕度を整えてもらう。必要に応じてエプロンやタオルを使用してもらう。
	3 介護者は利用者と同じ目線の姿勢を取る。
	4 食前に水やお茶を一口勧めて、口の中が湿って食べやすくなるようにする。
	5 利用者に献立を説明し、食欲がわくように声かけを行う。
	6 利用者の身体状況・摂食ペースに合わせて、一回の量を考え、飲み込みを確認し、誤嚥のないように介助する。
	7 利用者の好みを聞きながら、主食や副食が偏らないよう順序よく介助する。
	8 最後にお茶を飲み、口の中に残渣物がないか確認する。
	9 利用者に少しの間座位をとってもらい誤嚥防止をする。
入浴の介護	1 利用者の体調を確認し（排泄を済ませ）目的を説明して協力・同意を得る。
	2 環境や利用者にあった必要物品を整え、準備しておく。
	3 介護者が湯温を確認したあと、利用者にも確認してもらう。
	4 利用者の手足は体の中心部に向かって洗い、腕を支えるときは指先に力を込めないようにして掌全体持つようにする。
	5 浴槽に入る時は、手すり等で身体の向きを変え、健側の足をに入れてもらい、患

	側は膝の後ろを手で支えて入浴してもらう。
	6 浴槽から出るときは、バランスを崩さないよう、ゆっくり立ち上がり、バスボードに腰をかけて、患側の足から出てもらう。
	7 全身状態の観察を行う。
	8 利用者へ声かけを行いながら、自立支援を促して入浴ができるよう介助する。
	9 入浴後は体調を確認し、保温に留意し、水分補給を行ってもらう。
排泄の介護	1 利用者に状況・目的を説明し、協力・同意を得る。
①車いすから便座へ	2 車いすを便座の斜め前方に置く。
	3 車いすのストッパーをかけ、フットサポートを上げる。
	4 利用者に手すりを持ってもらい、利用者の腰を支えて立位をとってもらう。
	5 立位が安定していることを確認し、衣類を下げる。
	6 便座の位置を確認して、利用者に前傾姿勢をとってもらい、利用者の腰を支えながら、ゆっくりと腰を下ろしてもらう。
	7 下着とズボン等を膝より下に下げてもらい、バスタオルなどを掛け、その場から離れる。
	8 排泄後はきれいに拭けたかを確認し、衣類を整えた後、利用者の手洗いをを行う。
	9 利用者のプライバシーを考慮しながら、声かけを行い、自立支援を促す。
	10 ボディメカニクスを活用した姿勢・動作で行う。
排泄の介護	1 利用者に状況・目的を説明し、協力・同意を得る。
おむつ交換	2 必要物品を確認し、カーテンやスクリーン等を使い利用者のプライバシーに配慮する。
	3 利用者のタオルケットを上半身に、バスタオルを陰部あたりに掛け、殿部に防



## 2 レクリエーションの意義と留意点

### 【レクリエーションの意義】

私たちは、レクリエーションを行うことで、生きていくエネルギーを回復して元気になり、家族や仲間、地域の人たちとの交流を楽しみ、夢中になれるさまざまな趣味や遊びを楽しみたいというニーズを充足させることができる。

介護実践は、利用者のQOLの向上を目指して行われるが、QOLとは人の生活の満足度を質的に捉えようとする考え方であり、生活にゆとりと楽しみをもたらすレクリエーション活動を充実させることはQOLの向上を目指す介護実践にとって非常に重要である。また、利用者の意欲の向上、高齢者同士や介護スタッフや実習生とのコミュニケーション向上など多くのメリットがある。

高齢者福祉施設において、レクリエーション活動は非常に重要視されており、特にデイサービスセンターなどでは、レクリエーションがなければ活動が成り立たないといえる。

### 【レクリエーションの留意点】

介護の現場でのレクリエーションは、安全に配慮した上で適切に行うことや「参加を無理強いしない」こと大切である。高齢や障害のある利用者の場合は、使用する道具の工夫、場所や環境の整備、楽しみ方の工夫、支援する人の対応など、さまざまな工夫が必要である。

利用者の心身の状態はさまざまなので、介護職員が判断をして、一人一人に合ったレクリエーションであるか検討する必要がある。難しすぎる活動はやる気が起きないが、簡単すぎる活動では、飽きて興味を失ってしまう。また高齢者によっては、子ども扱いの様に感じることもあるため、自尊心を尊重する態度が大切となる。

### 【介護実習におけるレクリエーション援助】

「介護実習」では、レクリエーションメニューの選択やその工夫など、しっかりと打合せをして、高齢者の方々が楽しんで参加できるような準備を行う必要がある。「介護実習」の開始前にレクリエーション材を用意しておき、開始後に対象となる利用者の状況を見て具体的な計画を立案するようにする。ゲームなどのルールやどのような形で参加してもらうかなどは個別の調整も必要になる。レクリエーションの参加者の状況を把握し、人数や時間、必要物品や説明内容など利用者の状況とレクリエーションの内容から適切に判断する。

集団援助の技術と個別援助の技術を活用し、参加者全体に対して説明や進行を行う役割と、一人一人の参加者をフォローする役割が必要になるので、実習指導者に確認し、事前に打ち合わせを行っておく。

そして、実施の内容やその結果、課題と改善点を記録用紙に書いておき、次の実施に生かすようにする。

**演習** レクリエーションの計画書を作成し、レクリエーション材を作ろう。 **思考・判断・表現**

到達目標

感染予防に配慮し、利用者のQOLの向上につながるよう、工夫したレクリエーション計画を作成し、レクリエーション材を準備することができる。

記述例

【レクリエーションのタイトル】名前当てゲーム		
【予定参加人数】	【目安所要時間】	【レイアウト・配置】 
【実施予定日時】	【場所】	
【対象者】		
<p>【目的・ねらい】</p> <p>ふだん、あまり話さない方にも声を出してもらう。ヒントを言う方も答える方も、想像するので頭を使う。想像力が向上する。メンバーの交流が生まれて、協調できる。</p>		
<p>【レクリエーション内容】（支援内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カードに何かの名前を書いておく（イラストも入ると楽しい）参加者数＋予備を用意する</li> <li>・頭にかぶる紙の輪を2～3個作っておく。</li> </ul> <p>回答のカードを紙の輪につけるときは、クリップでつける。（安全のため）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答を書いたカードを、回答者に見えないように紙の輪につける。</li> <li>・回答者は前に出て、回答を頭にかぶってもらう。</li> <li>・他の参加者がヒントを紙に書き、出たヒントをスタッフ（レクリエーションリーダー）がホワイトボードに書いていく。</li> <li>・ヒントを参考に回答者が答えを言い、正解すれば交代していく。</li> </ul> <p>※ヒントが出にくいときは、スタッフが上手くフォローする。</p>		
<p>【準備物】</p> <p>ホワイトボード                  ペン                  答えを書いたカード  <b>さくらんぼ</b>                  頭にかぶる紙の輪                    クリップ                  人数分のいす</p>	<p>【注意事項】（安全面など）</p> <p>前に立っている人がよく見える位置に安定して座ってもらう。                  参加者同士の距離を可能な範囲で開ける                  「マスク」を着用する                  「ヒント」を言ってくれたらリアクションする。                  正解には、拍手を行う。                  当たりが出たら終わりではなく、関連して話を盛り上げる。</p>	

**【レクリエーションの発表の成果と課題】主体的に学習に取り組む態度**

利用者が理解できるよう、大きな声でゆっくり説明した。

カードに書いた言葉について、例えば「サクランボはお好きですか。」「おいしいですよ。」などの声かけを行ったが、それ以上は話が続かなかった。他の利用者役の生徒も特に楽しめていなかった。メンバーから、説明の時は言葉だけでなく、実際に行ってみる方が分かりやすいとアドバイスをもらった。ヒントの出し方も具体的な例があった方がよいと言ってもらった。

先生からは、例えば「サクランボ」だったら、生産量が一番多い県や品種などの豆知識を調べておいて伝えるようにすると興味を持ってもらえると言ってもらった。

回答者が正解したときは、拍手をしたが、音の出るもの（タンバリンなど）を用意しても盛り上がると思った。

小さいホワイトボードをいくつか用意して、書いてもらう方法もよいと思った。感染予防にもなるし話しにくい方も参加しやすいからである。

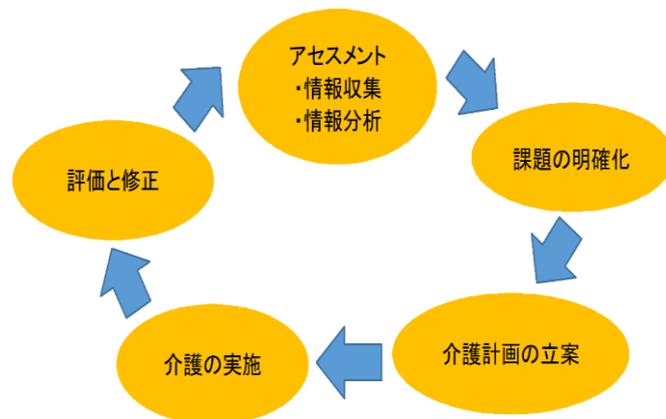
### 3 介護過程の展開

#### 1 介護実習における介護過程

介護は生活を支える行為である。生活を営んでいる利用者を主体とし、その利用者の**生活の質**の維持・向上にどのように関わるのかを考える。利用者の求めていることや望んでいることに介護福祉士の専門的な視点を加味し、客観的で科学的な**根拠（エビデンス）**のもとに、考えを組み立てていくことが大切である。

介護過程の展開、すなわち、利用者の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアについて理解し、**根拠（エビデンス）**を持って利用者一人ひとりの主体性を尊重した介護計画を立案し、実施・展開することで、**利用者主体**の介護のあり方を学ぶとともに、**介護実践能力**を養うことができると考える。

#### 2 介護過程の構成要素と取組



##### (1) アセスメント

アセスメントは、利用者の心身の状態に応じた適切な介護計画を作成するために必要な情報を収集して分析することをいう。**（情報収集・情報分析）**

##### ◆情報収集

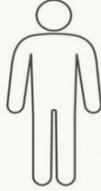
情報収集では、先入観や偏見を持たず、自分の目の前にある事実をありのままにみて見て、利用者の人生と生活の全体像を正確に把握することが必要である。その方法には、利用者本人から収集する、職員から収集する、家族から収集する、記録から収集するなどの方法がある。

情報収集した内容はよく吟味したうえで「**介護過程記録 NO, 1（フェイスシート）**」にまとめる。日常生活動作や口腔や皮膚の状態、コミュニケーション能力、認知機能、対人関係については「**介護過程記録 NO, 2（アセスメントシート）**」にまとめる。ICFの構成要素に従って情報を取りまとめておくと、以降の情報の整理・分析や課題の明確化に移行しやすくなる。

##### ◆情報分析（情報の解釈・関連付け・統合化）

次の3つの視点で検討し、「**介護過程記録 NO, 2（アセスメントシート）**」に記入する。3つの視点とは、①健康状態が悪化するような点はないか。（生命の安全）、②日常生活の自立、継続できていない点はないか。（生活の安定）、③その人らしく生活できていない点はないか。（人生の豊かさ）である。**情報の解釈**とは、3つの視点の中で、なぜそれができていないのかを考え、多くの情報の中からそれに関係する情報をまとめ、理解することである。**情報の関連づけ・統合化**は、関連性のある情報を統合し「今の状態がなぜ生じているのか」「こうすればもっとよくなるのではないか」「今の状態がそのまま続くとどうなるのか」という推測をしていくことで**課題**を明らかにしていく過程である。

介護過程記録 No 1 (フェイスシート) 有田中央高等学校 3年 氏名 ( )

利用者のイニシャル	性別 <input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	年齢	歳	各種手帳	認定	一日の過ごし方	アクティビティ
要介護度 (現在)	<input type="checkbox"/> 要支援 I <input type="checkbox"/> 要支援 II <input type="checkbox"/> I <input type="checkbox"/> II <input type="checkbox"/> III <input type="checkbox"/> IV					2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24	
生活歴・入所の経緯		家族構成 (ジェノグラム)					
		家族の状況					
		利用者の思い					
		大切にしていること・誇り		うれしいこと・楽しいこと		したいこと・して欲しいこと	
健康状態							
現病歴		既往歴		家族や自宅への思い		不安・悲しみ・したくないこと	
		身体の状態 (麻痺・拘縮・痛み・皮膚の状態など)				居室の環境	
							
						身長 ( ) 体重 ( )	
感染症	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )	アレルギー	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )				
現在処方されている薬剤		作用・副作用					

## 情報収集

### 介護過程記録 No 2 アセスメントシート

有田中央高等学校 3年 氏名 ( )

項目	現在の状況	状況の詳細	本人の思い	優先順位	アセスメント
移動	室内 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 見守り			1	【情報の解釈・関連づけ・統合化】  【課題】
	移動 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助				
	屋外 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 見守り				
	移動 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助				
食事	食事 <input type="checkbox"/> 支障あり			2	【情報の解釈・関連づけ・統合化】  【課題】
	内容 <input type="checkbox"/> 支障なし				
	食事 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 見守り				
排泄	排泄 <input type="checkbox"/> 支障あり			3	【情報の解釈・関連づけ・統合化】  【課題】
	排便 <input type="checkbox"/> 支障なし				
	排泄 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 見守り				
	動作 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助				
口腔	口腔 <input type="checkbox"/> 支障あり			4	【情報の解釈・関連づけ・統合化】  【課題】
	衛生 <input type="checkbox"/> 支障なし				
入浴	口腔 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 見守り			3	【情報の解釈・関連づけ・統合化】  【課題】
	ケア <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助				
更衣	入浴 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 見守り			3	【情報の解釈・関連づけ・統合化】  【課題】
	更衣 <input type="checkbox"/> 一部介助 <input type="checkbox"/> 全介助				
身だしなみ	身だしなみ <input type="checkbox"/> 支障あり			3	【情報の解釈・関連づけ・統合化】  【課題】
	身だしなみ <input type="checkbox"/> 支障なし				
睡眠	睡眠 <input type="checkbox"/> 支障あり			3	【情報の解釈・関連づけ・統合化】  【課題】
	睡眠 <input type="checkbox"/> 支障なし				
意識の状態	意識の状態 <input type="checkbox"/> 支障あり			3	【情報の解釈・関連づけ・統合化】  【課題】
	意識の状態 <input type="checkbox"/> 支障なし				
コミュニケーション能力	コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> 支障あり			4	【情報の解釈・関連づけ・統合化】  【課題】
	コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> 支障なし				
認知機能	認知機能 <input type="checkbox"/> 支障あり			4	【情報の解釈・関連づけ・統合化】  【課題】
	認知機能 <input type="checkbox"/> 支障なし				
対人関係	対人関係 <input type="checkbox"/> 支障あり			4	【情報の解釈・関連づけ・統合化】  【課題】
	対人関係 <input type="checkbox"/> 支障なし				

## 情報収集

## 情報分析

## 課題の明確化

収集した情報が利用者の生活にどのような影響を与えているのかを推測し、「介護過程記録 N0, 2 (アセスメントシート)」の【情報の解釈・関連づけ・統合化】のところに、「□□のため〇〇が必要ではないか。」「△△によって〇〇のリスクがあるのではないか。」「●●のため〇〇につながる可能性があるのではないか。」などのように書く。

## (2) 課題の明確化

**課題**とは利用者の望む生活を実現するために**解決**が必要なことである。収集した情報を解釈し、関係性を明らかにし、予後を予測することで明確になった事柄について、状況の維持・改善のために必要な**支援の方向性**を示すものである。「介護過程記録 N0, 2 (アセスメントシート)」の【課題】のところに「□□のため〇〇が必要である。」「△△のため〇〇のリスクを防ぐ必要がある。」「●●のため〇〇を防ぐ必要がある。」などのように書く。課題が複数になったときは、情報分析の3つの視点をもとに課題に優先順位をつける。このとき、利用者の立場に立って考え、**利用者が幸せに生活するための課題かどうかを十分に検討する**。

## (3) 介護計画の立案

課題を達成するための設計書を「介護計画」という。利用者の望む生活を支えるために、利用者の自己決定を尊重しながら、家族や他の専門職との連携のもと、利用者1人ひとりに対する介護計画を作成する。

### ◆「介護目標」

「介護目標」には「長期目標」と「短期目標」がある。「介護目標」は介護職の目標ではなく、利用者が達成する目標である。利用者のADLとQOLの現状を把握し、自立や向上に向けて考える。介護は客観的で科学的な**エビデンス (根拠)**に基づいて展開されなければならない。「介護計画」について、「なぜ、このように考えたのか。」という**エビデンス (根拠)**をしっかりと説明できるようにしておく。また、はじめは表面化している捉えやすい情報だけを分析して介護目標や介護計画を考えることもあるが、慎重に観察を重ねたり、関係が深まることで新たな気づきや発見によって方向性が変わることも多い。

### ◆「介護計画」

「介護目標」の達成のため具体的な援助の内容を検討して「介護計画」を立案し、「介護過程記録 N0, 3」に記入する。一人の利用者に複数の介護職が関わることを想定し、利用者本人・家族を中心に全員が共有することを念頭に作成する。留意点として、①いつ、どこで、誰が、何を、何のために、どのように行うのかを明確にする、②個別性を尊重し、時間や頻度など、利用者の状況に合わせて作成する、③目標と援助内容・方法の一貫性を確認する、④わかりやすい表現で記述する、⑤意欲的に取り組み楽しめるような工夫をする、の5項目に気をつける。また、「介護計画」を立てるときは、利用者の反応のどんなところを観察するのか、例えば、表情の変化や他の利用者との関わりなど具体的な観察内容と、利用者がどのようになることが目標達成なのかという評価の基準を明確にして、付箋紙等に記載しておき、評価を書く時に検証する必要がある。介護目標は「介護過程記録 N0, 3」の用紙に記入し、実施と評価につなげていく。同じ計画を継続して実施することもできる。計画を修正した場合は、評価の欄に理由を記入しておく。

#### (4) 介護の実施

「介護計画」にもとづいて介護（生活支援）を実施する。実施にあたっては、安全と安心、快適性、自立支援、尊厳の保持の視点により「心身の状態に応じた介護」を行う。

##### ア 安全と安心、快適性の視点

事故防止と感染予防に留意する

介護技術の熟練に努める

利用者とのコミュニケーションを十分に図る

利用者の心理的な理解に努める

##### イ 自立支援の視点

利用者の健康状態の把握

利用者の現在の機能と能力の把握とその活用

利用者自身による選択

利用者の意欲の促進

##### ウ 尊厳の保持

介護内容の事前の説明と同意を行う

自己決定を促す

接遇（言葉遣い・態度）

「介護計画」が本当に利用者を尊重し、希望や意向に沿ったものであるか、押しつけになっていないかについて常に考える必要がある。そして、介護事故を起こさないようリスクマネジメントの意識を持って実施することが必要である。実施中は注意深く利用者の観察（体調、意欲、集中力、疲労、表情、しぐさ、発言など）を行い、その観察によって利用者の理解を深めることができる。実施中がアセスメントの機会になる。実施した内容は「介護過程記録 NO, 3」に「記入するが、利用者の観察内容などをすべて書くことはできないので、毎日の記録用紙にも記入しておく。

#### (5) 評価・修正

介護の実施状況について、効果や目標の達成度、支援内容や方法、新たな課題などがないかどうか評価し、「介護過程記録 NO, 3」の用紙に記入する。介護計画を立てるとき、利用者の反応の具体的な観察内容と利用者がどのようなようになることが目標達成なのかという評価の基準を考えておいたので、評価を記入するときは、そのことをきちんと記載するよう留意する。

必要に応じて「介護計画」の内容を見直し、修正を行う。計画を修正した場合は、評価の欄に理由を記入しておく。

介護過程の記録用紙の最後に、「介護過程の振り返り」を記入し、学校に提出する。自分の考察や感想を中心に記入し、「介護総合演習」でおこなうまとめや報告書の作成に活用する。

**演習** 母親の誕生日のプランを考えよう。 **思考・判断・表現**

【事例】 高校生の A さん(17 歳・女性)は、父親(47 歳会社員)、母親(40 歳・高校教師)、妹(15 歳・中学生)の 4 人家族である。来月は、日曜日が母親の誕生日で、家族全員が休みであるため、妹と一緒にプレゼントをする予定である。母親は、高等学校で福祉を教えている教諭であり、テニス部の顧問でもある。土曜日などは練習や試合で仕事に行くことが多い。仕事が終わった後で買い物に行き、晩ご飯の支度をしたり洗濯物を片付けたりと家事に追われる毎日である。母親は手作りハンバーグが好きで、よく作ってくれる。甘いものも好きである。母親の趣味は、夫や友人との旅行や山登りである。また、時々家族での外食も楽しみにしていて、おしゃれなカフェに行きたいと言っている。

到達目標

家族の情報から、母親の誕生日の計画を考えることができる。

記述例

情報	情報から考えたこと	計画
母親は 40 歳の高等学校の教諭である。 家事や仕事のため忙しい毎日を送っている。 母親の趣味は、旅行や登山である。 外食も楽しみにしている。 ハンバーグが好物である。 甘いものも好きである。	忙しい日々を送っている母親に楽しい休日を過ごしてもらいたい。 父親と二人で日帰りの外出を楽しんでもらう。 好きなものを食べてもらう。 誕生日	①誕生日には、妹と協力して家事をする。 ・買い物に行き、晩ご飯の材料与ケーキを買って、ハンバーグを作る。 ・洗い物や片付け、洗濯物の片付け、お風呂掃除を行う。 ②昼間は父親とハイキングに行き、外食を楽しんでもらう。 ・ハイキングができる施設を調べる。 ・近くのカフェのランチを予約しておく。 ③夜は家族でお祝いをする。 ・母親の好きなハンバーグを家族そろって食べてもらう。 ・夕食後にケーキでお祝いをする。

**演習** ICFに基づいて利用者像を考えよう。**知識・技術**

【事例】田中英紀さん（78歳）は以前は企業の取締役として働いていた。定年後は、働いていた企業の相談役となり、妻とドライブや旅行を楽しんでいた。しかし、妻との旅行中の交通事故によって妻が他界し、英紀さんは脊椎損傷のため下半身麻痺となった。英紀さんは妻を失った喪失感や自身の障害を受け入れることができず、ふさぎ込んでしまう。趣味であった旅行やドライブ、相談役の仕事もしていない。食事もほとんどとらず、髭も伸びている。ある日、英紀さんの状態をみかねた息子の紹介で、介護福祉士の鈴木さんが田中さんの担当となった。最初は人の世話にはなりたくないと言っていたが、徐々に鈴木さんの温かいケアに信頼を寄せるようになった。

● 英紀さんの状態をICIDHにあてはめよう。**疾病** ⇒ **機能障害** ⇒ **能力障害** ⇒ **社会的不利**

到達目標

田中英紀さんの事例から、ICIDHの各項目に該当する情報を分類することができる。

記述例

① 疾病（病気）

脊髄損傷

② 機能障害（身体の状態をみて障害のある部分）

下半身麻痺

③ 能力障害（機能障害のために日常生活でできないこと）

立つことができない  
歩くことができない

④ 社会的不利(社会生活を行う上で不利なこと)

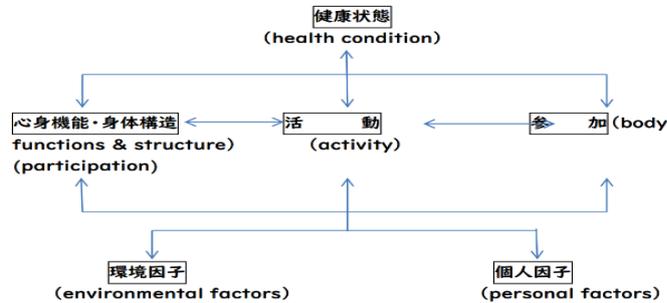
相談役の仕事ができない

● 鈴木さんと会う前の英紀さんの状態を ICF の構成要素にあてはめてみよう。知識・技術

到達目標

田中英紀さんの事例から、ICFの各項目に該当する情報を分類することができる。

記述例



① 健康状態は（病気，けが，ストレス）

脊髄損傷，高齢，ストレス

② 心身機能・構造（本人のこころ，筋力や麻痺等身体的状態）

妻の死や障害を受け入れられずふさぎ込んでいる，下半身麻痺  
何もする気が起きない，食欲もない

③ 活動（日常生活でしていること，環境が整えばできること）

（している）車いすで移動できる  
（できる）食事を食べることができる ひげを剃ることができる

④ 参加（仕事や家庭内での役割）

父としての役割  
息子が様子を見に来る

⑤ 環境因子（福祉用具，家族，介護者）

家，車いす，息子

⑥ 個人因子（性別，年齢，生活歴，価値観）

男性，78歳，愛妻家，大手企業の重役，定年後は相談役，旅行，ドライブが趣味

**演習** 情報の解釈・関連付け・統合化について考えよう。 **知識・技術**

【事例】78歳の森さん（男性）は脳梗塞により利き手である右上下肢に不全麻痺がある。普段からリハビリテーションに熱心に取り組み、明るく振る舞っていた森さんだが、最近「車椅子がこぎにくい」「リハビリの意味があるのか」等と言うようになり、イライラした様子で職員に大きな声を出すことが多くなった。毎年、お盆と正月に家族みんなで墓参りに行くのが恒例だったそうだが、今年は「行きたくない……」と外出しなかった。

**到達目標**

事例の情報を解釈・関連付け・統合化し、課題を見出すことができている。

**記述例**

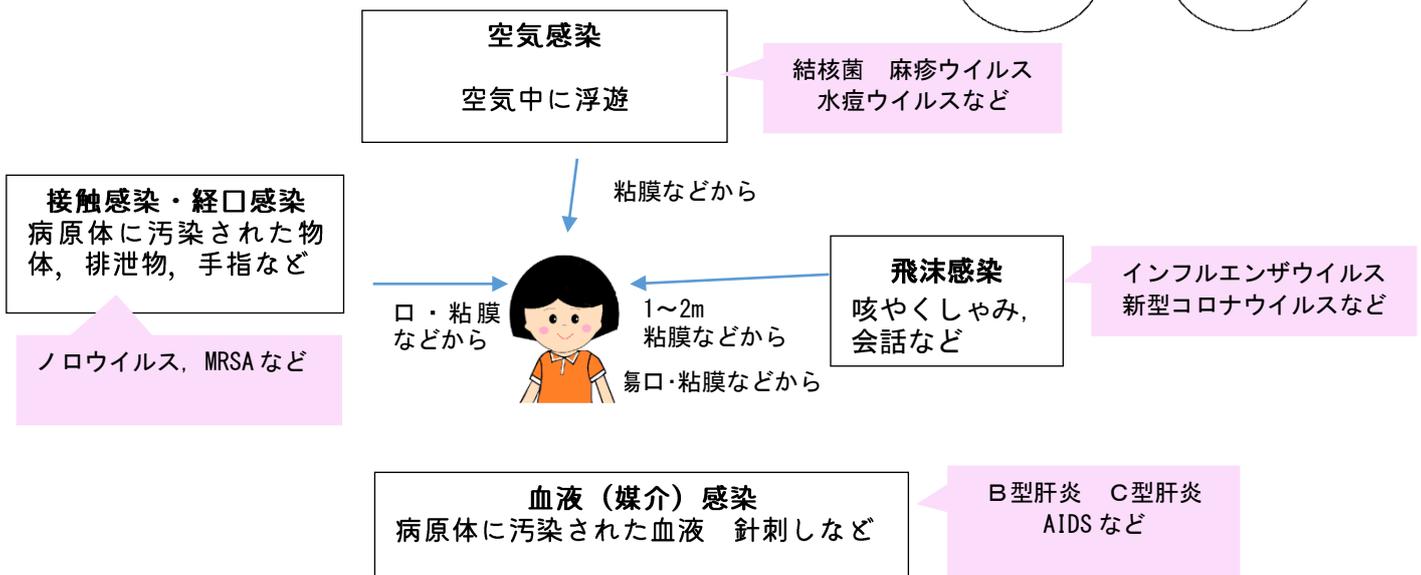
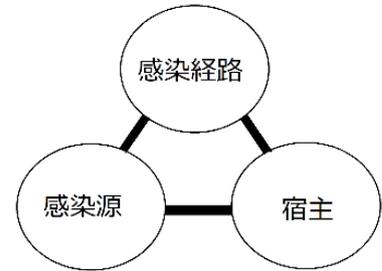
情報の解釈・関連付け・統合化	課題
<p>最近元気が無く、活動量も減ってきている。またイライラすることが増え、大声を出すことも見られてきた。これらは、リハビリ成果が出ず、今まで自力で行えていた動作が難しくなっていることへの焦りや不安からきていると考える。今のままではさらに心身機能が低下してしまう可能性がある。</p>	<p>本人の精神的不安が軽減できるよう関わりをもち、できるだけ自分の力で移動や移乗動作が行えるよう、日常的に筋力の維持を図る活動を行う必要がある。</p>

## 4 感染症について

### 1 感染とは

感染とは、微生物が生体内に侵入し、生体内で定着・増殖し、寄生の状態になった場合を「感染した」といいます。感染が成立するためには、次の3つの要素(感染の3要素)が必要である。

- 感染源……細菌やウイルス等の病原体のこと
- 宿主……人など(寄生者により寄生される生物のこと)
- 感染経路……感染源が広がる方法



### 2 施設における感染予防および対応

施設や病院で働く職員は、免疫力が低下している人や基礎疾患がある人と接する機会が多く、次の①~②に気をつける必要がある。

①病原体を持ち込まない

②病原体を持ち出さない

③病原体を拡げない

○スタンダードプリコーション(標準予防策)を徹底する。

スタンダードプリコーションとは「すべての血液, 体液, 分泌物, 嘔吐物, 排泄物, 皮膚創傷, 粘膜等は感染源となり, 感染する危険性があるものとして取り扱わなければならない」という考え方をいう。

#### 【感染源の排除】

感染源の存在している場所……①血液等の体液(汗Wを除く), ②粘膜面, ③正常でない皮膚, ④①~③に触れた手指

→①~③は素手で触らず, 必ず手袋を着用する。また, 手袋を外した後は必ず手指衛生を行う。

#### 【感染経路の遮断】

- ①持ち込まない……手洗い・手指消毒の徹底
- ②拡げない……

### 【一般的な予防方法】

- 手洗い, 手指消毒, 手袋, マスク, ガウン, ゴーグル, 消毒, 咳エチケット, 換気などに留意する。
- 休養, 栄養摂取, 運動など規則正しい生活リズムを整え, 体調管理に気をつける。

### 【利用者の感染症に対する一般的な対応】

- 日頃から利用者の様子を観察し, 普段と変わった症状があれば医療機関を受診する。
- 処方された薬の服薬確認を行い, 水分摂取を促す。
- 利用者の不安や苦痛を緩和するための支援をする。(発熱時はクーリングを行う, 不安な訴えを傾聴するなど)
- 常に経過を観察し, 気づいたことは医師や看護師に報告する。
- インフルエンザなど感染症が流行している時期の面会や利用者が感染症になった場合は, 家族に説明し, 理解を得る。施設内に入る際は, 健康チェック, 手指消毒, 換気, 距離をとるなど十分に気をつける。
- 施設内は常に清潔にしておく。清掃, 消毒, 換気など共同で使用する場所については特に注意が必要である。

## 3 疾患について

### ①インフルエンザ

<b>特徴</b>	インフルエンザウイルスにより引き起こされる急性ウイルス性疾患で, A型, B型などがある。冬期に発症することが多く, 周囲への感染の危険が高い。
<b>主な感染経路</b>	飛沫感染
<b>主な症状</b>	発熱(高熱) 悪寒 咽頭痛 筋肉痛 頭痛 全身倦怠感など 高齢者は発熱などの症状が現れないことがある。 子どもでは急性脳症, 高齢者で免疫力が低下している場合は肺炎を伴うこともある
<b>予防</b>	ワクチンによる予防接種が有効である。 流行時期には人混みを避ける, 手洗い, うがい, アルコールによる手指消毒, マスクの着用などえお行う。 室内の加湿や換気を行う。 休養や栄養摂取などによって免疫力を高める。
<b>施設での対応</b>	感染の疑いがある場合は, 他の利用者とは接触しないように個室隔離またはコホーティング(集団隔離)を行う。 発熱などの症状に対してはクーリングを行う。 脱水予防のため十分な水分摂取を行う。 アルコールによる手指消毒が有効である。 バイタルサインのチェックを行う。高齢者の場合症状が顕著に表れない場合があるため注意深く観察し, 普段と違う様子などがあれば医師や看護師に報告する。

## ② MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）感染症

<b>特徴</b>	<p>抗生物質であるメチシリンに対する薬剤耐性を獲得した黄色ブドウ球菌のことであり、多くの抗生物質が効きにくい菌であることから多剤耐性菌でもある。</p> <p>弱毒性の常在菌であり、通常健康な人には影響はないが、免疫機能が低下した高齢者などが発症すると、肺炎や髄膜炎、敗血症など重篤化することもある。</p> <p>院内感染する危険性がある。</p>
<b>主な感染経路</b>	<p>接触感染</p>
<b>主な症状</b>	<p>感染した部位により異なる。発熱、咳、膿性痰、下痢などが見られる。</p> <p>重症化すると敗血症、髄膜炎、心内膜炎、骨髄炎に陥り死亡することもある。</p>
<b>予防</b>	<p>手洗い、うがい、アルコールによる手指消毒、排泄物などに接触する場合は手袋、必要によりマスク、ゴーグル、ガウンの着用などが必要となる。</p> <p>排膿している傷口や、膿性痰、排泄物等の取り扱いには十分注意が必要である。</p> <p>手指で目や鼻を触るなど不用意に自身の粘膜に触れないよう注意する。</p>
<b>施設での対応</b>	<p>隔離の必要は特にないが、基本的な感染予防を行い拡散防止に努める。</p> <p>食器や衣服・リネンなどは通常の洗浄でよい。</p> <p>介護用具や汚染された物品は、消毒用エタノールなどで清拭消毒する。</p>

## ③ ノロウイルスによる感染性胃腸炎

<b>特徴</b>	<p>一年を通して発症するが、冬期に多発する。</p> <p>手指や食品などを介して、経口で感染し、腸管で増殖し、嘔吐、下痢、腹痛などを起こす。</p> <p>感染力が強いウイルスである。</p>
<b>主な感染経路</b>	<p>経口感染</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染した人の吐物や便から人の手などを介して二次感染する場合</li> <li>・人同士の会話などで飛沫などから直接感染する場合</li> <li>・感染している食品取扱者（調理担当者など）を介して汚染した食品を食べた場合</li> <li>・汚染された二枚貝の生食または不十分な加熱で摂食した場合</li> <li>・汚染された井戸水などを消毒不十分で摂取した場合</li> </ul>
<b>主な症状</b>	<p>嘔気 嘔吐（激しい） 下痢（水様便） 腹痛 発熱（軽度）</p>

<b>予防</b>	<p>食事の準備をする前は必ず石けんを十分に泡立て手洗いをを行う。爪は短く切る，時計や指輪を外すなども必要である。</p> <p>食器や調理器具などの十分な洗浄と消毒が必要である。</p> <p>食品は十分加熱調理する。中心部が85～90℃で90秒以上が目安となる。</p> <p>食品に触れる場合は使い捨て手袋の着用をする。</p> <p>嘔吐や下痢などの症状がある場合は，調理に従事しない。症状が治まってもしばらくはウイルスは排泄されていることがあるので注意が必要となる。</p> <p>アルコール消毒は効果が期待できず，次亜塩素酸ナトリウムによる消毒は効果がある。但し，人体には使用できないので注意が必要である。</p>
<b>施設での対応</b>	<p>個室隔離または，コホーティングで対応する。</p> <p>嘔吐物や排泄物の処理について</p> <p>マスク，ガウン，手袋を着用し，嘔吐物（排泄物）をペーパータオルなどで包み込むようにして静かに拭き取り，汚染された場所を次亜塩素酸ナトリウムで浸すようにして拭き取る。その後は水拭きをする。嘔吐物（排泄物）を拭き取ったペーパータオルなどはビニール袋に入れ，次亜塩素酸ナトリウムで浸し密封し蓋付きのゴミ箱に破棄する。（使用した手袋・マスク・ガウンなども同様）ビニール袋の外側にウイルスが付着している可能性もあるため二重にすることが望ましい。その後空気の流れに注意し，換気を行う。ウイルスは乾燥すると空気中に漂うことがあるため床など十分に拭き取り，換気が必要。</p> <p>処理が終了したら流水のもと石けんをよく泡立て手洗いをを行う。</p> <p>高齢者の場合，嘔吐物を誤嚥することで窒息や誤嚥性肺炎を起こすことがあるので気をつける</p> <p>脱水症状に気をつける</p> <p>下痢止めなどは自己判断で服用しない</p>

### ③ 腸管出血性大腸菌感染症

<b>特徴</b>	<p>出血を伴う腸炎を引き起こす大腸菌。溶血性尿毒症症候群（HUS）を引き起こすことがある。菌の成分によりいくつかに分類され代表的なものに，O157やO26，O111などがある。井戸水やサラダ，生肉などが原因食品等として特定または推定されている。</p>
<b>主な感染経路</b>	<p>経口感染</p>
<b>主な症状</b>	<p>腹痛や下痢（水様便）が主な症状である。</p> <p>無症状で経過する場合もある</p> <p>激しい腹痛や著しい血便などの症状がみられた場合には重症化しており，ベロ毒素を排出し溶血性尿毒症症候群となり，腎機能障害（急性腎不全）を引き起こす場合がある。</p>

<b>予防</b>	<p>石けんと流水による手洗いを行う。</p> <p>食品の加熱や消毒を行う。</p> <p>野菜などの場合は、流水による十分な洗浄を行う。</p> <p>通常の食中毒対策を確実にすることで予防は可能である。</p> <p>食品の中心温度が75度1分間以上の加熱で死滅する。</p>
<b>施設での対応</b>	<p>排便後や食事の前などは必ず手洗いを行う。</p> <p>少量の菌量でも感染するため、二次感染予防として、トイレの便座やドアノブなどのアルコール消毒を行う。</p> <p>排泄物の処理をする場合は使い捨てのゴム手袋を着用し、周囲に触れないようにナイロン袋に入れ破棄する。</p> <p>便などで汚れた衣類・下着は薬品などによる消毒や煮沸などをし、他の人のものと一緒に洗濯をしない。</p> <p>なるべくシャワー浴とし、湯船に入らないようにする。</p>

#### ④ ウイルス性肝炎

<b>特徴</b>	<p>肝炎ウイルスが幹細胞ないで増殖する肝臓の炎症性疾患である。発症すると慢性化することもあり、肝炎から肝硬変、肝臓がんへ移行することもある。日本では、A型、B型、C型が多い。感染経路はウイルスの型により異なる。</p>
<b>主な感染経路</b>	<p>A型肝炎…経口感染：A型肝炎ウイルスに汚染された水や食物（特に生の貝類）の摂取。集団感染することもある。</p> <p>B型肝炎…血液感染：血液や体液を介する。C型肝炎…血液感染：血液や体液を介する。</p>
<b>主な症状</b>	<p>倦怠感、食欲不振、嘔気、黄疸など。無症状で経過するケースが多い。</p> <p>A型感染の場合、消化器症状（嘔気、嘔吐、下痢など）や発熱を伴うこともある。</p>
<b>予防</b>	<p>A型肝炎…ワクチン接種</p> <p>感染した人の排泄物などに触れる際は手袋を着用し、処理後は石けんを使用し手洗いを十分に行う。食品の十分な加熱を行う。</p> <p>B型肝炎…ワクチン接種</p> <p>感染した人の血液や体液に触れる場合は手袋を着用し、処理後は石けんを使用し手洗いを十分に行う。</p> <p>C型肝炎…ワクチンは現在のところない。</p> <p>感染した人の血液や体液に触れる場合は手袋を着用し、処理後は石けんを使用し手洗いを十分に行う。</p>
<b>施設での対応</b>	<p>A型肝炎の場合、排泄物等を取り扱う際は十分に注意する。</p> <p>B型肝炎・C型肝炎の場合は、感染した人の血液等の取り扱いに十分に気をつける。</p> <p>感染した人に使用した注射針には十分に気をつけ安全に破棄する。</p>

⑤ 疥癬

<p><b>特徴</b></p>	<p>ダニの一種であるヒゼンダニが皮膚に寄生することで起こる。 通常疥癬の他に集団感染を起こしやすい角化型疥癬（ノルウェー疥癬）がある。通常疥癬の場合、潜伏期間は約1～2ヶ月である。角化型疥癬の場合、4～5日後に通常疥癬として発症することがある。</p>
<p><b>主な感染経路</b></p>	<p>接触感染 通常疥癬…直接肌と肌が長時間にわたり接触することで感染する。まれに、シーツの共用などでも感染することがある。感染力は弱い。 角化型疥癬…短時間の接触でも感染する。シーツやタオルの共用などで感染する。はがれ落ちた角層に接触することでも感染する。感染力は強く、特に免疫力の低下している人は注意が必要である。</p>
<p><b>主な症状</b></p>	<p>通常疥癬…はげしい掻痒感、丘疹、結節、疥癬トンネルなど 指間、腋窩、下腹部、大腿内部など皮膚がふれあう場所にみられることが多い。 角化型疥癬…角質増殖 掻痒感は不定である。</p>
<p><b>予防</b></p>	<p>リネンやタオルなどの清潔 感染した人が発生した場合、他の利用者に広げないように注意する。</p>
<p><b>施設での対応</b></p>	<p>通常型疥癬…隔離は不要 洗濯物等は他の利用者と分けて運搬（ビニール袋などに入れる） 車いすやイスなどは感染した人が使用後は清拭をする 角化型疥癬…個室（隔離）する 手袋や予防衣などを着用する。 入浴は最後とし、使用後は掃除する。落屑を残さないよう留意する。 使用後の衣類やリネン類等はビニール袋に入れ、殺虫剤を散布し密封する。洗濯は50度以上10分間熱処理後に行う。または、洗濯後に乾燥機使用する。 車いすなどを使用した後は殺虫剤を使用する。 モップや粘着シートなどで落屑を取り去って、掃除機をかける。 *同居家族や同室者など生活を共にする人は、予防的な治療を受けることがあり、集団感染とならないように十分注意する必要がある。</p>

⑦新型コロナウイルス感染症（参考：2021.9.10 厚生労働省より）

<p><b>特徴</b></p>	<p>新型コロナウイルスは、コロナウイルスの一種である。ウイルスは粘膜に入り込み感染を起こす。物に付着したウイルスは約24～72時間の間は感染力があるといわれている。ウイルスは流行していく中で少しずつ変異を起こしている（変異株）ため、今後も情報に注意し、対応する必要がある。</p>
<p><b>主な感染経路</b></p>	<p>一般に飛沫感染と接触感染である。発症の2日前から発症後7～10日間程度他の人に感染させる可能性があるとされている。特に発症の直前と直後でウイルスの排出量が高くなるため、無症状病原体保有者から感染する可能性がある。</p>
<p><b>主な症状</b></p>	<p>無症状で経過する場合もある。発熱，咳，のどの痛みなど 呼吸困難，倦怠感，高熱などの症状がある場合や，重症化しやすい人（高齢者を始め基礎疾患（糖尿病，心不全，呼吸器疾患などがある人や透析を受けている人，免疫抑制剤屋抗がん剤などを用いている人）で発熱や咳など比較的軽い症状が続く場合は，医療機関などへすぐに相談する。軽症で治癒する人も多いが，普通の風邪症状が出てから約5～7日程度で，症状が急速に悪化し，肺炎に至ることがある。治療や療養が終わっても一部の症状が長引くことがわかってきている。</p>
<p><b>予防</b></p>	<p>手洗い…流水だけでも有効であるが，石けんを使用した場合ウイルスの膜を破壊することができるため更に有効である。洗い残しの無いようにすることが大切である。 消毒…手指消毒用アルコールも有効である。（濃度70～95%のエタノールが有効であるが，60%台の濃度でも一定の有効性があると考えられる報告がある） マスク…不織布マスク（最も高い効果） 三密を避ける…密閉空間，密集場所，密接場面を避ける ワクチン接種が有効である。</p>
<p><b>施設での対応</b></p>	<p>感染経路の遮断 感染対策マニュアル等に基づいた，高齢者や職員，面会者や委託業者などへのマスクの着用を含む咳エチケットや手洗い，手指消毒用アルコールによる消毒など，サービス提供時におけるマスクやエプロン，手袋の着用，食事介助前の手洗いや清潔な食器での提供の徹底など感染経路の遮断の取り組みを行う。 感染した人が発生した場合は，保健所や医療機関の指示に従う（隔離または閉鎖など） 身の回りの物の消毒・除菌は，熱水，次亜塩素酸ナトリウム，アルコール消毒液による消毒を行う。</p>

**確認テスト** **知識・技術**

**問題** 次の（１）～（３）の問いに答えよ。

（１）次の感染症の主な感染経路を書け。

感染症	感染経路
インフルエンザウイルス感染症など	飛沫感染
結核，麻疹など	空気感染
B型肝炎，C型肝炎など	血液（媒介）感染
ノロウイルス感染症，MRSAなど	接触（経口）感染

（２）次の感染源のうち，ワクチンによる予防接種が有効なものはどれか，書け。

インフルエンザウイルス ノロウイルス B型肝炎ウイルス C型肝炎ウイルス MRSA

インフルエンザウイルス B型肝炎ウイルス

（３）「疥癬」の主な症状を書け。

はげしい掻痒感，丘疹，結節，疥癬トンネルなど

（４）スタンダードプリコーションの考え方を書け。

すべての血液，体液，分泌物，嘔吐物，排泄物，皮膚創傷，粘膜等は感染源となり，感染する危険性があるものとして取り扱わなければならない

**演習** 実習施設での感染予防のために留意することを書こう。 **主体的に学習に取り組む態度**

**到達目標**

介護実習における感染予防についてよく理解し、介護実習における感染予防に関する行動についてまとめることができている。

**記述例**

### 感染予防の留意点

#### 【家庭での留意点】

- ・施設実習が始まる2週間前から、感染拡大地域（或いは他府県）へは、行かないようにする。
- ・施設実習が始まる2週間前から、家族以外の（友人など）との食事や遊びには十分気をつける。例えば会食しない、友人宅へ泊まりに行かない、カラオケに行かないなど。
- ・自分の健康状態、睡眠、食事に留意して、体調を整えておく。
- ・毎日の健康チェックを必ず行う。
- ・手指のケアを行い、手荒れを防止する。

#### 【介護実習時の留意点】

- ・毎朝体温測定し、自分の健康チェックをする。体調がいつもと異なる時は実習には参加せず医療機関を受診する。
- ・毎日清潔にする。
- ・施設での実習開始前後、排泄、食事の前後は必ず手洗いと消毒を行う。
- ・ハンカチは毎日交換し、自分専用の物とする。絶対に共用しない。
- ・利用者に対するケアの前後の手指の清潔を守る。1ケア1手洗い+消毒
- ・マスクを着用する。必要時には、ガウンやフェイスシールドなどを着用する。
- ・血液や排泄物などは素手で触らない。手袋を着用し、その後は必ず手洗いと消毒を行う。
- ・清潔に関することは自分で勝手に判断せず職員の指示に従う。
- ・施設で使用したマスクは、実習終了後に捨てて、新しい物に交換する。使用したフェイスシールドはアルコールで消毒する。
- ・帰宅後は手洗い、うがい、手指の消毒を行い、着用した実習服を洗濯する。

#### シーツ交換

- \* ビニールエプロンやガウンを着用し、清潔なリネンを汚染しないようにする。
- \* ベッド上に注射針など感染源となるものがないか確認する。
- \* 疥癬など節足動物媒介感染となる利用者のシーツを交換する際、介護者はガウンと手袋を着用し、汚染されたシーツは毎日交換し、50度以上のお湯に10分以上浸してから洗濯をする。また、マットの上などは掃除機で丁寧に掃除をする。
- \* 血液などが付着しているシーツの場合、他のシーツと混ぜずビニール袋に入れる。洗浄・消毒等の処理が必要なため、専門業者に委託するか汚れがひどい場合は、許可を得て廃棄する。
- \* 使用済みのシーツは、多数の微生物が付着している可能性があるため吸い込まないようマスクを着用する。
- \* MRSAやノロウイルスなどの場合、最後に実施する。汚染されている場合、嘔吐物などを吸い込まないように除去した後、熱水洗濯や次亜塩素酸ナトリウム液などで消毒を行う。
- \* 必要に応じ、ガウン、マスク、ゴーグル、手袋を着用する。
- \* 換気を行う。

### 衣服着脱の介護

- \* 新しい衣服は、地面などにつかないように清潔に取り扱う。
- \* 使用済みの衣服は、埃を立てないように小さくまとめ、ランドリーに入れる。
- \* 疥癬による感染症の場合、使用済みの衣服はビニールに入れ、殺虫剤を噴霧し24時間密封した後、通常洗濯、乾燥機使用。もしくは、50度10分間熱処理後洗濯・乾燥機を使用する。

### 食事の介護

- \* 咳などをしている対象者や飛沫感染のおそれのある対象者を介助する場合、介護者はマスク、ゴーグル、フェイスシールド、エプロンなどを着用する。
- \* 咳やむせ等がある場合、ななめ後ろから飲み込みの様子を観察しながら行う。
- \* MRSAやノロウイルス感染症の場合、個人専用食器とすることが望ましい。使用後は十分な洗浄の後、次亜塩素酸ナトリウム液等で消毒を行う。
- \* MRSAやノロウイルス感染症の場合、嘔吐物や排泄物などは速やかに処理し、次亜塩素酸ナトリウム液などで消毒をする。

### 入浴の介護

- \* 使用済みの衣服などは埃を立てないようにランドリーに入れる。
- \* 皮膚の状態が正常でない（傷や褥瘡等、疥癬などの感染症）などがある場合、入浴は最後にする。使用後は、浴槽など十分洗浄し、マットなど脱衣室は掃除機をかける。
- \* 疥癬の場合、タオルや下着などの洗濯物は、ナイロン袋に入れ殺虫剤を噴霧し24時間密封後、洗濯・乾燥機使用を行う。
- \* 飛沫感染などの感染症の場合、入浴後は十分な換気をし、使用した箇所（手すりなど）を消毒する。

### 排泄の介護

- \* 排泄物などを処理する場合は必ず使い捨て手袋を着用し、処理後は石けんによる流水下での手指の洗浄および消毒を行う。
- \* 排泄物が付着した箇所は速やかに清掃し、便座などは次亜塩素酸ナトリウムなどで消毒を行う。
- \* ポータブルトイレを使用した場合も同様に、排泄物を速やかに処理し、洗浄し、次亜塩素酸ナトリウムなどで消毒を行う。
- \* 下痢をしている対象者の場合、感染性のあるものとして取り扱い、使用した箇所は消毒を行う。
- \* 使用済みのおむつは速やかにナイロン袋などへ入れ、地域のルールに則って廃棄する。感染が疑われる場合は、感染性廃棄物として取り扱う。

## 5 介護実習に必要な漢字

### 到達目標

次の漢字を辞書などを使って調べて、適切に記述できている。

### 記述例

1	指の間にアカが溜まる	垢	
2	手でアシクビを押さえて痛そうにしていた	足首	
3	アシモトが濡れていないか確認した	足元	
4	脊椎をアツパクして骨折したらしい	圧迫	
5	胃痛はイカイヨウが原因らしい	胃潰瘍	
6	インキがはっきりしている	意識	
7	車いすにイジョウする	移乗	
8	検査の結果はイジョウがなかった	異常	
9	土を口に入れるなどのイショク行動が見られた	異食	
10	イタミの程度を観察する	痛み	
11	イフクの着脱を行う	衣服	
12	生活行為に対するイヨクが低下している	意欲	
13	イントウ痛がある	咽頭	
14	インブセンジョウ	陰部洗淨	
15	入浴するようウナガス	促す	
16	体温計をエキカに入れた	腋窩	
17	食物をのみこむことをエンゲという	嚥下	
18	しゃっくりはオウカクマクの痙攣でおこる	横隔膜	
19	オウトの症状があれば注意する	嘔吐	
20	シーツにオセンがある	汚染	
21	寝ている姿勢をガイという	臥位	
22	ガイショウはけがのことである	外傷	
23	カイセンでは皮膚の発疹と痒みがある	疥癬	
24	ガイソウは咳のことである	咳嗽	
25	カクタンキュウイン	喀痰吸引	
26	感染症のためカクリが必要である	隔離	

27	寝ていることをガショウという	臥床	
28	関節のカイドウイキ	可動域	
29	認知症のカノウセイがある	可能性	
30	カレイに伴って低下する	加齢	
31	皮膚のカンカク	感覚	
32	シーツ交換を行うときはカンキをする	換気	
33	カンケツセイハコウという症状がある	間欠性跛行	
34	カンジョウシツキン	感情失禁	
35	カンセツコウシュク	関節拘縮	
36	ウイルスにカンセンした	感染	
37	心臓のカンドウミヤクの疾患	冠動脈	
38	利用者のキオウレキを調べる	既往歴	
39	午後はキカイヨクの見学をした	機械浴	
40	キカンシエン	気管支炎	
41	歩行時はギシを装着する	義肢	
42	口腔ケアの時はギシを外して洗浄する	義歯	
43	キソタイシャが下がってきているらしい	基礎代謝	
44	喀痰をキュウインする	吸引	
45	キュウカクに異常がある	嗅覚	
46	ギョウガイで寝る	仰臥位	
47	キョウシンショウの発作が起こっている	狭心症	
48	キンイシュクセイソクサクコウカショウ	筋萎縮性側索硬化症	
49	キンコシュクはパーキンソン病の症状である	筋固縮	
50	肘関節がクッキョクしている	屈曲	
51	クルマイルス	車椅子	
52	ケイカンエイヨウ	経管栄養	
53	ケイゴを使う	敬語	
54	ケイコツの骨折	脛骨	
55	利用者の訴えをケイチョウした	傾聴	
56	ケイブを後屈させると誤嚥につながる	頸部	
57	ケツアツの低下に気をつける	血圧	
58	肺にケッセンができています	血栓	

59	腹痛とゲリの症状が見られる	下痢	
60	ゲンエン食を食べている	減塩	
61	ゲンカクの症状が見られる	幻覚	
62	ケンコウコツ	肩甲骨	
63	実際にはないものが見えることをゲンシという	幻視	
64	ケントウシキが障害されている	見当識	
65	コウアツザイを服用している	降圧剤	
66	コウオンショウガイのため話せない	構音障害	
67	脱水症ではコウカツ感を訴える	口渇	
68	コウカンシンケイ	交感神経	
69	食後にコウクウケアを行う	口腔	
70	コウケツアツを予防するために塩分を控える	高血圧	
71	コウシケツショウ	高脂血症	
72	コウジノウキノウショウガイ	高次脳機能障害	
73	関節のコウシュクが見られる	拘縮	
74	コウジョウセンの疾患	甲状腺	
75	咽頭の奥はコウトウという	喉頭	
76	コウトウブ	後頭部	
77	コウフン	興奮	
78	坐薬はコウモンから挿入する	肛門	
79	コウレイカリツ	高齢化率	
80	ゴエンにより肺炎が起こる	誤嚥	
81	コカンセツ	股関節	
82	コツカクキン	骨格筋	
83	コツズイから血液を採取する	骨髄	
84	しりもちをついてコッセツした	骨折	
85	コツソショウショウがあるので転倒に注意する	骨粗鬆症	
86	コツバンが安定している	骨盤	
87	コツバンテイキン	骨盤底筋	
88	活動にサギョウリョウホウシが一緒に参加する	作業療法士	
89	ザンゾンキノウ	残存機能	
90	シカクに障害がある	視覚	

91	利用者のシコウに配慮する	嗜好	
92	シコウの過程を大切にする	思考	
93	歯に付着しているシコウを落とす	歯垢	
94	シシュウビョウ	歯周病	
95	ジジョグを使って食事を食べる	自助具	
96	ジソンシンを大切にする	自尊心	
97	シタイフジユウのため生活が困難になった	肢体不自由	
98	シツカンセツを伸ばしてもらう	膝関節	
99	夜間にシッキンが見られた	失禁	
100	シツゴのため会話や文字に表現できない	失語	
101	シッコウでは運動機能に問題はない	失行	
102	皮膚にシッシンが見られる	湿疹	
103	シッペイがある	疾病	
104	シヤの異常のため右半分が見えない	視野	
105	ジャクネンセイニンチショウ	若年性認知症	
106	ジュウニシチョウに潰瘍がある	十二指腸	
107	認知症のシュウヘンショウジョウ	周辺症状	
108	シュヨウができています	腫瘍	
109	ジュンカンキの疾患	循環器	
110	ショウカキの疾患	消化器	
111	ショウチョウで栄養を吸収する	小腸	
112	ジョウドウコウドウが見られる	常同行動	
113	ショウドクする必要がある	消毒	
114	ショウノウの腫瘍による歩行困難	小脳	
115	ジョウホウシュウシュウ	情報収集	
116	ジョウミヤク	静脈	
117	ジョウワンコツ	上腕骨	
118	咀嚼して口の中でショッカイをつくる	食塊	
119	ショクジセイゲンが必要な状態	食事制限	
120	ジョクソウ予防のために体位変換を行う	褥瘡	
121	便秘の予防として、ショクモツセンイを摂取する	食物繊維	
122	ショクヨクが低下している	食欲	

123	脈が少ないことをジョミヤクという	徐脈	
124	ジリツシンケイ	自律神経	
125	シンキンコウソク	心筋梗塞	
126	シンケイショウ	神経症	
127	ジンコウコウモン	人工肛門	
128	シンセンとはふるえのことである	振戦	
129	シンゾウ	心臓	
130	ジンゾウ	腎臓	
131	ジンタイが損傷した	靭帯	
132	シンチョウに対応する	慎重	
133	シンチンタイシャ	新陳代謝	
134	心身のスイジャクを招く	衰弱	
135	白内障はスイショウタイが白濁しておこる	水晶体	
136	スイゾウ	脾臓	
137	スイミンショウガイ	睡眠障害	
138	ズガイコツ	頭蓋骨	
139	セイケツな衣類	清潔	
140	セイタイに腫瘍ができています	声帯	
141	朝は鏡を見ながらセイハツを行う	整髪	
142	セキズイの損傷	脊髄	
143	ニトログリセリンはゼツカ錠	舌下	
144	ゼンケイシセイをとってもらう	前傾姿勢	
145	ゼンソクの発作	喘息	
146	腸のゼンゾウウインドウ	蠕動運動	
147	センパツの時は、湯の温度に注意する	洗髪	
148	ゼンリツセンが原因の失禁	前立腺	
149	ゼンワン部に湿疹が見られる	前腕	
150	ソウウツの症状が見られる	躁うつ	
151	思い出すことをソウキするという	想起	
152	車でソウゲイする	送迎	
153	部屋をソウジした	掃除	
154	自信をソウシツする	喪失	

155	ソクガイ	側臥位	
156	パジャマのソデ	袖	
157	ソングンの保持	尊厳	
158	2時間毎にタイイヘンカンを行う	体位変換	
159	ダイタイコツ	大腿骨	
160	ダイタイコツケイブコッセツ	大腿骨頸部骨折	
161	ダイチョウにポリープができています	大腸	
162	ダエキの分泌	唾液	
163	ダッケンチャカンは寝衣交換の基本である	脱健着患	
164	入浴後はダッスイ症状に気をつける	脱水	
165	タンザイで食事を食べる	端座位	
166	タンジュウの分泌	胆汁	
167	タンスイカブツの多い食品	炭水化物	
168	タンセキ	胆石	
169	タンノウエン	胆嚢炎	
170	チュウジエン	中耳炎	
171	チュウスウシンケイ	中枢神経	
172	チョウカクに障害がある	聴覚	
173	チョウヘイソク	腸閉塞	
174	チョクチョウで検温する	直腸	
175	ツウカクが鈍くなっている	痛覚	
176	ツウフウの痛みがある	痛風	
177	ツエホコウの介助を行う	杖歩行	
178	ツミカサネが必要	積み重ね	
179	ツメを切る	爪	
180	食事が食べられないためテイケットウになった	低血糖	
181	テキセツに対応する	適切	
182	便が出ないのでテキベンを行う	摘便	
183	テダスケが必要な状態	手助け	
184	テンガン薬	点眼	
185	熱中症でテンテキをしてもらった	点滴	
186	移乗の介護ではテントウに注意する	転倒	

187	デンプをしっかりと支える	臀部	
188	眼の虹彩によって囲まれた孔をドウコウという	瞳孔	
189	トウゴウシツショウ	統合失調症	
190	脈拍はトウコツ部で測定する	橈骨	
191	トウニョウビョウ	糖尿病	
192	ドウミヤクコウカ	動脈硬化	
193	ナイゾウに疾患がある	内臓	
194	ナンショウ	難聴	
195	ニョウシツキンのためにおむつを使用している	尿失禁	
196	排尿できないことをニョウヘイという	尿閉	
197	ニョウロに結石ができています	尿路	
198	他人の顔がニンシキできない。	認識	
199	ニンチショウの症状が見られる	認知症	
200	自分でネガエリができない	寝返り	
201	ネツショウにならないよう湯の温度に注意する	熱傷	
202	ネットウを入れるので気をつける	熱湯	
203	ネンマクは傷つきやすい	粘膜	
204	ノウケツカンセイニンチショウ	脳血管性認知症	
205	ノウケツセン	脳血栓	
206	ノウコウソク	脳梗塞	
207	ノウセイマヒ	脳性麻痺	
208	ノウソクセン	脳塞栓	
209	ハイカイの症状が見られる	徘徊	
210	ハイケツカク	肺結核	
211	ハイセツの介助	排泄	
212	朝食をハイゼンした	配膳	
213	ハイホウの障害で呼吸ができない	肺胞	
214	ハイヨウイシュク	廃用萎縮	
215	ハイヨウショウコウグン	廃用症候群	
216	ハクナイショウのため手術を受ける	白内障	
217	ハンザイで食事を食べていただく	半座位	
218	ハンソククウカンムシ	半側空間無視	

219	麻痺のある場合はヒザオレを防止する	膝折れ	
220	ヒマンを解消する必要がある	肥満	
221	夜間にヒンニョウが見られる	頻尿	
222	運動をしたのでヒンミヤクになった	頻脈	
223	フクシキコキュウ	腹式呼吸	
224	足背にフシュが見られる	浮腫	
225	フセイミヤク	不整脈	
226	ヘイコウキノウが低下している	平衡機能	
227	ヘイソクセイカンキショウガイ	閉塞性換気障害	
228	ヘンケイセイシツ (ヒザ) カンセツショウ	変形性膝関節症	
229	ボウコウエンのため頻尿である	膀胱炎	
230	ホチョウキを使うとよく聞こえる	補聴器	
231	マンセイキカンシエン	慢性気管支炎	
232	身体をミツチャクさせる	密着	
233	ミヤクハクを測定する	脈拍	
234	あり得ないことを信じるのがモウソウだ	妄想	
235	モウマクの障害で失明した	網膜	
236	感情がヨクアツされている	抑圧	
237	リガクリョウホウシ	理学療法士	
238	リュウドウセイチノウが低下する	流動性知能	
239	クッションを使ってリョウシイを保つ	良肢位	
240	視覚障害のある人をユウドウして行く	誘導	
241	リョクナイショウのため視野が狭くなっている	緑内障	
242	ロッコツを骨折したらしい	肋骨	

## Ⅳ 介護実習中の留意点

### Ⅰ 実習生としての態度

#### 1 学生として謙虚で礼節ある態度をとる。

- (1) 言葉づかいに留意する。(敬語, 謙譲語, 丁寧語を適切に使う)
- (2) 誰に対しても挨拶を行う。
- (3) 実習の開始時には, 自分から「本日の目標」と「介護実習計画」を実習指導者(施設職員)に伝え, 助言を仰ぐ。
- (4) 実習中は, 実習指導者(施設職員)と連絡を取り, 積極的に指導を仰ぐ。その際, 相手の都合を確認してから指導を受ける。
- (5) 休憩中であっても, 床に座ったり騒ぐなど不謹慎な行動をしない。学生同士の私語は慎み, 互いに姓を呼ぶ。
- (6) 施設は利用者の生活の場であることを認識し, 他人の家にいるつもりで慎重に行動する。
- (7) 利用者と話すときは敬語を使用し, 同じ目の高さで話す。
- (8) 利用者に依頼されたこと(買い物・外への散歩など)は自己判断せず, 必ず指導者に相談し対応する。
- (9) 利用者の持ち物を勝手に動かしたりしない。
- (10) 利用者には何かをあげたり, 約束したりしない。利用者からお金やお菓子等をもらわない。断りにくい場合は, 指導者に相談する。
- (11) メモは利用者の前では書かないようにする。特別に必要な場合は, 実習指導者(施設職員)の了解を得る。
- (12) 私用の電話は慎む。(携帯電話は電源を切ってかばんに入れておく。施設の電源で充電しない)
- (13) 実習に関係ないもの(菓子類, ゲーム, マンガの本等)は持って行かない。
- (14) 利用者や家族, 実習先の職員などに, 自分や他の実習生の個人情報を教えない。
- (15) 施設内や利用者の写真撮影等は行わない。(実習時間以外でも同じ)

#### 2 出席に関しては下記事項を厳守する。

- (1) 時間を厳守する。実習開始時刻の10分前までに更衣を済ませ, 実習指導者(施設職員)に挨拶をし, 実習できる態勢が整っていること。
- (2) やむを得ない理由で欠席する場合は, 実習開始時刻の10分前までに実習先及び学校(担当教員)の両方に連絡すること。
- (3) 遅刻は原則として認めないが, やむを得ない理由で, 遅刻をする場合は, 必ず教員に相談すること。
- (4) 毎日, 所定の介護実習出席簿に自分の印鑑を押印する。
- (5) 実習途中で体調が悪くなった場合は, 無理をせず, 実習指導者(施設職員)に申し出ること。

### 3 守秘義務を厳守する。

- (1) 実習中に得た利用者についての個人情報や施設内の情報等については、いかなる状況においても、学習の場以外で口外しない。また、ソーシャル・ネットワーキング・サービス等の電子媒体で公開しない。
- (2) 電子メールやLineなどで介護実習に関する内容をやりとりしない。

### 4 実習施設等の機能に支障をきたすことがないように慎重に行動する。

- (1) 実習時間外の実習施設への出入りは、教員と実習指導者の許可を得る。
- (2) 実習生は学ぶ立場であることを自覚し、実習指導者（施設職員）の指示に従って行動する。自己判断や思いつきで行動しない。
- (3) 施設の物品を使用するときは、許可を得てから使用する。施設の設備・備品などを破損した場合は、すみやかに実習指導者（施設職員）に報告し指示を受ける。物品を使用した後は必ず元の状態にし、所定の場所に戻す。
- (4) 実習中は常に自分の所在を明確にする。

### 5 実習終了にあたっては下記事項を厳守する。

- (1) 実習指導者（施設職員）にお礼を述べ、挨拶する。
- (2) 利用者への挨拶は実習指導者（施設職員）の指示に従う。
- (3) 実習中借用した部屋・物品はきれいに清掃し元の位置に戻す。
- (4) 最終日の記録や提出が遅れている記録等があれば、忘れず提出する。
- (5) 実習終了後は、利用者との個人的な関係は差し控える。

## 2 服装・身だしなみ

- (1) 実習の行き帰りは制服を着用し、実習の服装は指定された実習服とシューズとし、常に清潔なものを着用する。
- (2) 頭髪は清潔にする。髪染め及びパーマはしない。前髪は眉にかからないようにする。後ろ髪は実習服につかないようにアップスタイルにする。（アップスタイルにならない場合は結ぶ。）ゴムやピンは黒色とし、目立たないよう気をつける。リボン、カラーゴム、派手な髪どめは使用しない。
- (3) 化粧をしない。アクセサリはつけない。爪は短く切り、マニキュア等はない。
- (4) 靴下は白で、ルーズソックス及びくるぶしまでのものは使用しない。
- (5) ハンカチ、ティッシュペーパーをポケットに入れて持参する。

### 3 健康管理

- (1) 規則正しい生活をし、睡眠をいつもより十分にとり、朝食を食べる。
- (2) 発熱・咳・下痢・嘔吐などの症状がある場合は速やかに学校に報告し、医療機関を受診する。  
また、その結果を教員に報告する。
- (3) 実習期間中は特に感染予防を心がける。
- (4) 実習開始2週間前から実習最終日まで、健康チェックシートに記入する。
- (5) 実習期間中は、日常生活において感染症に罹患しないよう十分に気をつける。
- (6) 実習中・実習前後のていねいな手洗いとうがいを励行する。

#### [手洗い]

- ・ 援助の前後は（流水と石けん又は速乾性手指消毒剤による）手指衛生を行う。
  - ・ 感染源となりうるもの（血液・体液・分泌物・排せつ物、傷のある皮膚・粘膜等）に触れたときは、速やかに石けんと流水による手洗いをを行い、速乾性手指消毒剤による消毒を行う。
  - ・ 実習の前後は必ず流水と石けんで手洗いをを行う。（自分のタオルで拭く）
- (7) 実習中はマスク及びフェイスシールドを携帯し、実習服やシューズの清潔に気をつける。
  - (8) 感染源となりうるものに触れるときは、手袋を着用する。
  - (9) 感染予防のため、職員の指示にしたがい防護具を使用する。

### 4 事故等の対応

#### 1 事故防止対策

- (1) 介護実習では、知識不足、手順の間違いや確認不十分、又は偶発的な事象などによって対象者に多大な傷害や損傷を与えてしまう可能性がある。実習生は、利用者になそのような害を与えることのないよう、十分に注意して実習を行う。
- (2) 利用者に十分な配慮ができるよう、体調を整え実習に臨む。
- (3) 介助を行う場合、安全性の確保を最優先とし、事前に教員や実習指導者（施設職員）の助言・指導を受け、実践可能なレベルまで技術を修得してから臨む。
- (4) 安全に援助が行えるように、利用者の状況や環境に留意する。
- (5) 利用者について不安や疑問をもった場合やわからない場合は、教員や指導者に速やかに相談し、助言を得る。
- (6) 思いこみによる間違いを防ぐために、声に出して実習指導者（施設職員）の確認を得る。

## 2 事故等の対応

- (1) 利用者を不慮の事故に遭わせた時は、直ちに実習指導者（施設職員）に報告し、指示を受ける。また、できるだけ速やかに学校に報告する。
- (2) 施設の設備や物品、利用者の私物の破損時は、実習指導者（施設職員）に報告し、指示を受ける。また、できるだけ速やかに学校に報告する。

## 5 実習の欠席や警報発令時の対応

- (1) 実習を欠席する場合は、学校に連絡をした後、実習先に連絡をする。
- (2) 通学途中、事故等に遭った場合は、直ちに学校に連絡する。
- (3) 交通機関の運行停止などにより実習に行くのが困難な場合は、必ず学校と実習先に連絡をすること。
- (4) 警報発令時の実習の取り扱い

### 【実習開始前】

午前7時

有田中央高等学校のある有田川町に大雨警報、暴風警報または特別警報が発令されている

有田中央高等学校のある有田川町に大雨警報、暴風警報または特別警報が発令されていない



家庭学習



実習施設のある地域のいずれかに大雨警報、暴風警報または特別警報が発令されている



8:30までに学校（産振棟）に登校する

午前10時

引き続き、有田中央高等学校のある有田川町に大雨警報、暴風警報または特別警報が発令されている

有田中央高等学校のある有田川町の大雨警報、暴風警報または特別警報が解除された



家庭学習



12:00までに学校（産振棟）に登校する

### 【実習中】

実習開始後に、有田川町もしくは実習施設のある地域に大雨警報、暴風警報又は特別警報が発令された場合は、教員から指示があるまで実習を継続する。

**演習** 介護実習の留意点についてまとめよう。主体的に学習に取り組む態度

到達目標

介護実習のきまりや実習生としての態度、介護実習での様々な状況への対応について適切にまとめることができている。

記述例

- 介護実習では、実習生としての態度や言葉遣いに気をつけ、職員の指示に従い勝手な行動をしない。報告・連絡・相談を忘れない。
- 利用者に対しては、常に敬語で明るくコミュニケーションを図る。
- 規則正しい生活をして、体調管理を行い、欠席や遅刻をしないようにする。
- 感染予防に気をつけて過ごす。
- 実習中はメモをとり、分からないことは質問する。
- 生活支援技術を実施できるときは、積極的に行うようにするが、方法を職員にしっかり確認する。
- 自分からやってみたいことを職員に伝えるようにする。
- 記録の時は、下書きをして文章を見直してから清書する。

## V 介護実習記録

### 1 目的と意義

#### 1 体験や思考を整理し、表現力や思考力を向上させる

介護実習を振り返り、学んだことや疑問に思ったことなどを文章に表現することで、考えが整理でき、介護実習で体験したことを自分の学習として意味づけすることができる。利用者との関わりでは時間的余裕のない中での判断になることも多く、後で振り返ることで多面的に考察できる。利用者の反応をどう受け止めてどのように考えたのか、何を学ぶことができたのかを整理することで、表現力や思考力を向上することができる。

#### 2 学習（実践したこと）の記録及び評価資料となる

実習内容や生活支援の実際、利用者の状況、アクティビティなどを記録することによって価値のある学習の資料となる。また、実習内容が明確になり評価や指導に役立てることができる。そのためにも、その場にはいない者が読んでもわかるように記述することが大切である。

#### 3 コミュニケーションの手段となる

記録は実習指導者や教員とのコミュニケーションの手段の一つである。記録によって実習内容や成果、課題が実習指導者や教員に伝わり、適切な助言や指導を受けることができる。

### 2 心得

#### 1 意識的な行動と観察を心がける

その日の実習目標を意識して行動し、何に対しても意識を持って観察することが大切である。

#### 2 メモをとる

メモ帳を常に携帯し、観察したことや指導を受けた内容を書いておく。（実習に差し障りがないか判断してメモを書くこと。）

#### 3 すべてを書くのではなく、ポイントを絞ってまとめるようにする。

メモの用紙に内容を書き出し、記録用紙に記入する内容を検討してから書く。

### 3 書き方と取り扱い

#### 1 介護実習記録の作成について

- (1) 黒のボールペンで書く。（消せるボールペンは使用しない）誤字などの訂正をするときは二重線を引いて訂正する。二重線が多くなった場合は書き直しをする。
- (2) 実習施設で使用している記録用紙等を複写（コピー）や写真撮影をしない。
- (3) 介護実習記録類の複写（コピー）や写真撮影をしない。
- (4) 実習記録は実習施設内において自筆で作成する（自宅には持って帰らない）。
- (5) 介護実習記録のすべての用紙に日付、実習施設名、氏名等を丁寧に書く。
- (6) 介護実習記録が破れたりしわがよったりしないよう丁寧に扱い、破れた場合には修理をするか書き直すようにする。
- (7) 誰が読んでもわかる内容になるよう気をつけ、読みやすいいねいな字で書く。

- (8) 誤字・脱字のないよう、専門用語などわからない用語や漢字は辞書等で調べて正しく記載する。  
携帯電話やスマートフォンなどでの検索は禁止する。

## 2 介護実習記録の書き方の留意事項について

- (1) 始めと改行したときは、文頭を1文字あける。  
(2) 文字は楷書で常体文（～である。～だった。）で書く。  
(3) 敬語・敬称は使わない。「～させていただいた。」ではなく、「～した。」と書く。「～様」「～さん」は必要ない。  
(4) 「脱がせる」「座らせる」など「～させる」の表現は不適切なので使わない。  
(5) 一般的に記録に使わない表現に注意する。  
〔よくある不適切な表現〕  
・「やっぱり」、「すごく」、「すごい」、「ほんまに」、「めっちゃ」、「どんどん」  
・「～してあげる。」「～さしてもらう。」「やらしてもらう。」「～しかいい。」  
「～したりした。」「～しとく。」「立てれる。」「～に生かされた。」「～しぬくい。」  
・ →（矢印）、？（クエスチョンマーク）、！（エクスクラメーションマーク）などの記号  
(6) 「実際にあったこと・事実」と「誰かがそう捉えていること」や「自分の考えや感想」はきちんと区別する。  
(7) できるだけ具体的に書く。「できるところをしてもらった。」「プライバシーに配慮した。」「コミュニケーションが取りづらかった。」「楽しそうにしていた。」「落ち着きがなかった。」などの表現ではなく、どのような様子が詳しく具体的に書く。  
(8) 記録用紙、メモ、カンファレンスの資料等に個人を特定する情報（氏名等）を記載しない。  
(9) 不必要な情報・不確実な情報は記述しない。  
(10) 数値で表せるものについては、数値化して記載する。（水分量、姿勢保持の角度、排尿・排便回数、身長・体重など）  
(11) 実習記録では「根拠」が大切である。それはどうしてか、なぜそう思うのか、その理由は何か、などを考えて書くようにする。

## 3 介護実習記録の提出・返却について

- (1) 記録類は実習指導者（担当の職員）に直接手渡すようにする。  
(2) 記録の返却の際には、直接受け取る。  
(3) 介護実習記録の実習指導者（施設職員）のコメントを参考に介護実習を進め、翌日からの実習目標や計画に生かすよう努める。

## 4 介護実習記録の保管・管理について

- (1) 氏名を記入し、自分の記録物であることを明らかにしておく。  
(2) 記録類は必ず専用ファイルにとじ、第三者の目に触れないようにする。  
(3) 記録類が入ったカバン等の置き忘れ、紛失や盗難に注意する。  
(4) 不要になった記録やメモ類はシュレッダーにかけるなど細かく切り刻んで廃棄する。  
(5) 記録類の紛失時は、直ちに教員に報告し指示を受ける。

**演習** 介護実習記録にまとめよう。主体的に学習に取り組む態度



事例について、介護実習記録のそれぞれの項目に適切に記述することができる。



# 介護実習記録

和歌山県立有田中央高等学校

月 日 曜日 ( : ~ : )		施設名		氏名	
<b>本日の実習目標</b> 利用者に安心して過ごしてもらうため、相手の状況に応じた声かけを実践する。					
時間	主な実習計画	時間	主な実習内容		
9:00	入浴介助を職員と一緒にいき、声かけについて学ぶ。	9:30	入浴介助では、湯の温度の確認や着脱介助を声かけに気をつけながら行った。		
14:00	レクリエーション援助を行い、利用者に喜んでもらえるような声かけを実践する。	14:00	ピザトーストを作るのを手伝いながら、「おいそうですね」「お野菜がたくさん入っているですね。」などの声をかけた。		
<b>1日を振り返って気づいたことや学んだこと</b> 入浴の介助では、浴槽の湯の温度、浴槽に出入りする時の安全、浴室の床の安全、シャワーの湯の温度などについて安全を確保するための声かけが必要になる。利用者理解してもらえるよう、はっきりと分かりやすく伝える必要があるが、温かい態度も必要である。そのことを意識しながら声かけを行う必要があると学んだ。 午後からのレクリエーションの時間に、利用者が食パンに自分の好みの材料をのせてオーブントースターで焼いて食べて頂いた。はじめは、「食べたことがない」とか「あまり好きじゃない」という方もいたが、色とりどりの野菜やソーセージなどをのせていいにおいで焼けると、みなさん完食され、満足そうだった。職員は、「これ、いっぱい乗せてくださいね」や「野菜は栄養満点ですよ」など笑顔で食欲がわくような声かけをして盛り上げていたので、声かけで楽しい気持ちになってもらうことが必要だと学んだ。					
<b>本日の目標達成度や今後の課題について</b> 相手の状況に応じた声かけについて学ぶという目標であったが、職員は利用者に伝わるように工夫しながら、その人に合ったコミュニケーションの図り方を工夫していた。その様子から、利用者に合った声かけについて学ぶことができ、まねをしながら実践した。また、利用者に合ったコミュニケーションの方法を見つけることは難しいが、少しずつ慣れていきたいと思う。職員からもはじめから利用者に合ったコミュニケーションの方法を自分で考えることはできないので、職員に聞きながら少しずつ実践できればいいとアドバイス頂いた。					

## 4 介護実習目標の立て方

介護実習目標には、何のために（目的）行うのか、また、どのように（方法）行うのかが含まれているように書くことが望ましい。

**演習** グループでそれぞれの生活支援技術の目的と方法を書こう。**主体的に学習に取り組む態度**

到達目標

グループでそれぞれの生活支援技術の目的と方法を話し合い、分かりやすくまとめることができている。

記述例

### 1 コミュニケーションの目標

#### 目的

困っていることを確認するために  
 意欲を持ってもらうために  
 安心して思いを表現してもらうために  
 利用者を理解するために  
 尊厳を守るために  
 利用者同士の交流を深めてもらうために  
 願いやニーズを理解するために  
 楽しく過ごしてもらうために

#### 方法

利用者のペースで話す  
 利用者の関心のある話題を提供する  
 自信や意欲を引き出す言葉を工夫する  
 非言語的表現を見逃さない  
 共感的な態度で  
 自然な笑顔や目線に留意する  
 うなづきや相づちによって話しやすい環境を作る

コミュニケーションを行う

### 2 食事介助の目標

#### 目的

誤嚥を予防するために  
 リラックスした雰囲気でもらうために  
 安定した姿勢でもらうために  
 できるだけ自立でもらうために  
 安全・安楽でもらうために  
 食欲がわくために  
 楽しく食べてもらうために  
 バランスよく食べてもらうために  
 食事量が増加するために

#### 方法

食事の献立を説明しながら  
 水分摂取をこまめにすすめながら  
 何が食べたいかを確認しながら  
 楽しい話題を提供しながら  
 嚥下を確認しながら  
 利用者のペースや一口の量を確認しながら  
 食べやすいよう食器の位置を調整しながら

食事介助を行う

### 3 排泄介助の目標

#### 目的

安心して気持ちよく排せつしてもらうために  
寒さを感じさせないために  
安全にトイレに行ってもらうために  
安全に排せつしてもらうために  
羞恥心を感じさせないために  
羞恥心への配慮のために  
尊厳を守るために  
自立した排せつ動作の支援のために  
トイレに行く意欲を持ってもらうために

#### 方法

転倒しないように配慮しながら  
皮膚や排泄物の観察を行いながら  
パッドやギャザーの調整をしっかりと行いながら  
必要物品を事前に確認し  
動作ごとに丁寧な声かけを行いながら  
おむつの位置を確認しながら  
つかまる場所をしっかりと伝え、協力を得ながら  
衣服の上げ下げやパッドの準備を素早く行う

排泄介助を行う  
トイレ誘導を行う  
おむつ交換を行う

### 4 入浴介助の目標

#### 目的

安心して気持ちよく入浴してもらう  
寒さを感じさせないために  
満足できる入浴のために  
安全に入浴できるように  
羞恥心への配慮のために  
尊厳を守るために  
入浴の意欲を持ってもらうために  
自立した入浴動作の支援のために

#### 方法

ゆっくりわかるよう声かけをしながら  
皮膚の観察を行いながら  
転倒しないよう配慮しながら  
必要物品を事前に確認し  
湯の温度を確認してもらい  
動作ごとに丁寧な声かけをしながら  
シャワーチェア-の位置を確認し  
丁寧に洗髪・洗身を行いながら  
自分で行ってもらうことをしっかりと伝え、協力を得ながら

入浴介助を行う

## 5 着脱介助の目標

目的	方法
<p>気持ちよく着替えてもらうために 寒さを感じさせないために 安全に着替えられるように 満足感を持ってもらうために 負担をかけないために 羞恥心への配慮のために 尊厳を守るために 着替える意欲を持ってもらうために 自立した着脱動作の支援のために</p>	<p>しわや衣服のずれがないか確認する 露出に配慮する 安定した姿勢に配慮しながら 着脱の手順を説明しながら 自分で行える方法を説明し、協力を得ながら 必要物品を事前に確認しておく 体調の観察を行いながら 動作ごとに丁寧な声かけをしながら 患側を保護しながら</p>

**着脱の介助を行う**

## VI 介護実習壮行会

介護実習壮行会には、介護実習と同じような緊張感をもって臨むようにする。壮行会では、2学年・3学年の全員が「介護実習」に向けての決意表明として、実習の目標やどのようにして目標を達成するかなどを発表する。介護実習では慣れない環境の中で、施設の職員や利用者と関わりながら、日頃とは異なる学び方が求められる。何のために実習に行くのかをしっかりと考えて、目標を持っていかなければ、戸惑っている間に時間が過ぎてしまうこともある。その心構えをしっかりと作るために介護実習壮行会への取組は重要である。

介護実習で特に取り組みたいことを目標に挙げ、どのように取り組んでいくかを整理し、しっかりと頭に入れておく。発表は、声の大きさや話すスピード、また発表時の態度などを事前に確認したうえで、参加者にわかりやすく伝えるように努める必要がある。壮行会では、顔を上げて、前にいる先生方に向けて発表する。発表後は、校長先生や担任の先生などの激励の言葉を聞く機会となる。他の生徒の発表や先生方の話を聴くときは、傾聴の態度で聴き、メモを取っておき、壮行会終了後に、壮行会での他の参加者の発言内容と自分が考えたことや感じたことを記録用紙にまとめる。そして、壮行会で学んだことを、介護実習の取組に生かすよう努める。

### 介護実習壮行会 【介護実習Ⅰ】

**演習** 壮行会に向けて介護実習目標や抱負について自分の考えを書き、壮行会で学んだ内容をまとめよう。**思考・判断・表現** **主体的に学習に取り組む態度**

#### 到達目標

介護実習目標や抱負を具体的に記述し、壮行会で学んだことを分かりやすくまとめることができている。

#### 記述例

#### 【介護実習目標】

私の目標は、利用者とのコミュニケーションの図り方を学ぶことと利用者に応じた方法、で生活支援技術を実践し、なぜその方法で行うのかについて学ぶことです。

#### 【目標を達成するために努力したいことや抱負】

利用者に興味を持ってもらえるような会話が提供できるよう、テレビや新聞を見たり、昔の時代の出来事を調べて準備をします。職員のコミュニケーションの図り方から学び丁寧に声かけをします。生活支援技術の留意点を頭に入れて、職員にその利用者にあった生活支援技術を学び、実践します。そして、分からないことがあればそのまませず、質問をして、学んだことはきちんとメモ帳に書くようにします。

### 【他の生徒の発表内容で参考になったこと】

利用者が安心できる安全な生活支援技術を身に付けることを目標にあげている人がいたが、大切だと思った。

生活支援技術では、ボディメカニクスを意識して行うという発表もあった。

積極的に行動することも大切だと思った。

職員とのコミュニケーションも大切だということ。

### 【先生からの激励や助言内容】

高校生の貴重な経験になる。感謝の気持ちを持って、前向きな取り組みが大切である（校長先生）

何事もはじめからうまくできないが、あきらめずに努力し続けることが大切である。（二年☆○&先生）

自分から挨拶をして、大変なときも笑顔を忘れず、素直な気持ちで取り組んでほしい。（三年□■先生）

何のために実習に行くのかを考えて、謙虚な態度で臨むことが必要である。（三年□○▼先生）

未熟なりに頑張ることは出来るので、中途半端なことはしないでほしい。（二年\*■&先生）

### 【壮行会を通して気づいたことや考えたこと】

せっかく実習に行くのだから、少しでも多くのことを学べるよう積極的に頑張ろうと改めて思った。

緊張するけれど、先生方に言ってもらったことを思い出して、自分から行動したいと思った。

困ったことがあったら、相談することが大切だと分かった。

# 介護実習壮行会 【介護実習Ⅱ】

**演習** 壮行会に向けて介護実習目標や抱負について自分の考えを書き、壮行会で学んだ内容をまとめよう。**思考・判断・表現** **主体的に学習に取り組む態度**

## 到達目標

介護実習目標や抱負を具体的に記述し、壮行会で学んだことを分かりやすくまとめることができている。

記述例

### 【介護実習目標】

担当する利用者に合った介護計画を作成し、利用者に安心して生活してもらえるような生活支援を実践することです。

### 【目標を達成するために努力したいことや抱負】

利用者に合った介護計画を作成するために、情報収集が重要であると考えます。利用者の状況をよく観察し、本人とコミュニケーションを図り、職員さんからも利用者の情報を教えてもらうようにします。情報から利用者のニーズを見つけて、それを解決するための介護計画を考えます。介護計画を実践するときは、声かけや説明をしっかりとうえで、職員に計画の内容を確認してもらい、安全に行うことで、利用者が安心して生活できるようにします。実践したことは職員と一緒に振り返りを行い、評価して改善していきたいと思えます。

### 【他の生徒の発表内容で参考になったこと】

昨年度の成果と課題を参考にして、今年度の目標としたという意見があった。利用者が施設でどのように生活しているのか把握し、利用者の考えや思いを十分に把握することが大切である。

### 【先生からの激励や助言内容】

施設の職員や利用者に感謝の気持ちを持って、前向きに取り組むことが大切である（校長先生）

誰でもはじめからうまくできないのは当たり前だが、だからといってあきらめずに努力し続けることが大切である。（二年☆○&先生）

高校生なので未熟なのは当然であるが、未熟なりに手を抜かず頑張ることは出来る。（二年\*■&先生）

何のために実習に行くのかを考えて、謙虚な態度で臨むことが必要である。（三年□○▼先生）

自分から挨拶をして、自分がうまくいかないときも笑顔を忘れず、素直な気持ちで取り組んでほしい。

素直に人が言ってくれることを聞き入れることが大切である。（三年□■先生）

### 【壮行会を通して気づいたことや考えたこと】

実習に行くことは正直気が重かったけど、今日の発表やみんなの発表を聴いて、一生懸命やろうという気持ちになった。

施設の職員や利用者に感謝の気持ちを持って、何事も素直に受け止めたいと思う。

2年生がコミュニケーションに関する目標を発表していたのを聴いて、昨年度の実習でコミュニケーションに苦労したことを思い出した。今年度はその反省を生かして、利用者が楽しく過ごせるようなコミュニケーションを図れるようにしたい。

# 介護実習項目チェックリスト 有田中央高等学校

施設名 ( ) 年 氏名 ( )

実施回数を「正」の字で書く。

見学：実習指導者の介護内容を見学する。

指導下実施：実習指導者とともに実施する。

実施：実習指導者の見守りのもとで実施する。

	項目	見学	職員と一緒に実施	職員の見守りで実施
環境	環境整備・清掃			
	ベッド・メーカーグ シーツ交換			
食事	準備・後始末			
	全面・部分介助			
	水分摂取介助			
	経管栄養		/	/
排泄	トイレ誘導介助			
	ポータブルトイレ介助			
	尿・便器の介助			
	浣腸・摘便		/	/
	ストーマの管理		/	/
	おむつ交換			
身 じ た く	パジャマ交換			
	かぶり式衣服交換			
	洗面			
	爪切り			
	髭そり		/	/
	口腔ケア			
	義歯のケア			
	整髪			

	項目	見学	職員と一緒に実施	職員の見守りで実施
清潔	洗髪			
	入浴（一般浴）			
	入浴（機械浴）			
	シャワー浴			
	清拭			
	手浴			
	足浴			
	陰部清拭・洗浄			
安楽 ・ 移乗 ・ 移動	安楽な体位の工夫			
	体位変換			
	・ ベッドと車いすの移乗			
	ベッドとポータブルトイレの移乗			
	車いすと便座の移乗			
	・ 車いす介助			
	杖歩行介助			
	歩行器歩行介助			
家の 事 ・ その 他の	調理			
	洗濯			
	・ レクリエーション			
	買い物介助			
	散歩介助			
	体温・血圧測定			
	喀痰吸引			

## VII 介護実習の自己評価

**演習** 介護実習 I での学びを振り返り、実習目標に対する達成度を自己評価してまとめよう。

思考・判断・表現

到達目標

実習目標に対する達成度について、具体的な根拠に基づいて分かりやすく記述できている。

### 1 認知症対応型老人共同生活援助事業所

記述例

#### 介護実習 I 自己評価

実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日	
実習施設名	グループホーム●◆☆	
実習目標	具体的な取り組み・成果等	自己評価
認知症対応型老人共同生活援助事業所に対する理解を深める。	グループホームで生活されている利用者にとって、家庭のような雰囲気、その方に合ったペースで生活して頂くことが大切であることを学んだ。	A
利用者の生活や生活課題を理解する。	グループホームで生活されている利用者の日課や行事などについてオリエンテーションで教えて頂いた。利用者のニーズについて、生活支援の場面で教えていただいた	B
利用者と適切にコミュニケーションを図る。	態度や言葉遣いに気をつけ、利用者に積極的に声かけを行った。利用者に応じて聞こえやすいよう大きな声で話したりジェスチャーを交えて伝えるようにした。	A
安全・安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた生活支援技術を実践する。	職員から食事介助では利用者のペースに合わせることや緊張をほぐす声かけが必要であること、入浴介助では体調確認や安全の確保が必要であること、移乗の介護ではボディメカニクスを活用するなど、利用者にあった方法を教えてもらうことが出来た。	A
介護職員の役割や多職種との連携、地域とのつながりを理解する。	介護職員の業務や介護職員以外の職種の業務について説明頂いた。利用者の家族を招いて茶話会を行ったり、地域の祭りに参加したりしている。	A
介護福祉士としての基本的な態度を身につける。	笑顔でコミュニケーションを図り、言葉遣いに気をつけた。また、職員に報告・連絡・相談をきちんと行うようにした。	A
記録の目的や意義について理解し、適切に記述できる。	記録の項目に沿って書くように努力した。しかし、実習目標が毎日同じ内容になってしまい、目標が達成の程度が書けなかった。また、内容が少ない日もあった。	B

## 介護実習 I 自己評価

実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日	
実習施設名	デイサービスセンター○@#	
実習目標	具体的な取組・成果等	自己評価
通所介護に対する理解を深める。	オリエンテーションで説明してもらいまとめることができた。職員さんから、デイサービスセンターが利用者にとってどのような場所が考えることができた。	A
利用者と適切にコミュニケーションを図る	すべての利用者に積極的に話しかけた。笑顔で大きな声で話すことができた。話題が浮かばず会話を続けることが難しい場面もよくあった。テレビや新聞で話題になることを見つけておくよう教えて頂いた。	B
集団援助と個別援助のあり方を理解する	レクリエーションで全体に説明する機会があったが、職員に助けってもらって行うことができた。レクリエーションが始まったら、一人一人の様子を見て、声かけをするよう努めた。	B
安全と安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた適切な生活支援技術を実践する。	職員に教えて頂き、トイレ誘導、食事介助、入浴介助を実施した。その方に合った声かけをしながら、観察もしっかりできていたと指導者さんに言ってもらえた。	A
介護職員の役割や多職種との連携、地域とのつながりを学ぶ。	オリエンテーションで施設の介護職員以外の職種についても説明してもらった。また、デイサービスセンターと地域の高齢者や子どもたちとの交流が行われていることを教えてもらった。	A
介護福祉士としての基本的な態度を身につける。	言葉遣いや態度に気をつけ、指導者から学ぶ姿勢がよいと言ってもらった。	A
記録の目的や意義について理解し、適切に記述できる。	記録の項目に沿って書くように努力した。しかし、実習目標が毎日同じ内容になってしまい、目標が達成の程度が書けなかった。また、内容が少ない日もあった。	B

### 3 介護老人福祉施設・介護老人保健施設（2 学年）

介護実習 I 自己評価		
実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日	
実習施設名	特別養護老人ホーム□×☆苑	
実習目標	具体的な取組・成果等	自己評価
介護老人福祉施設もしくは介護老人保健施設に対する理解を深める	特別養護老人ホームで生活されている方に対して，施設で安心して少しでも楽しく生活してもらえるよう支援する必要があることをオリエンテーションの時に実習指導者から学んだ。	A
利用者の生活や生活課題を理解する。	特別養護老人ホームで生活されている利用者の日課や行事などについてオリエンテーションで教えて頂いた。利用者が必要としていることは，施設で介護を受けながら安心して生活することであると学んだ。	A
利用者と適切にコミュニケーションを図る。	態度や言葉遣いに気をつけ，利用者に積極的に声かけを行った。利用者に応じて聞こえやすいよう大きな声で話したりジェスチャーを交えて伝えるようにした。	A
安全・安楽に留意し，個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた生活支援技術を実践する。	職員に生活支援技術で気をつけるところやその理由などを分かりやすく説明してもらい，よく理解できた。	A
介護職員の役割や多職種との連携，地域とのつながりについて理解する。	オリエンテーションで施設の介護職員以外の職種についても説明してもらった。また，地域の子どもたちが敬老の日の訪問をしていることを教えてもらった。	A
介護福祉士としての基本的な態度を身につける。	言葉遣いや態度に気をつけたが，笑顔が少なく，自分から積極的に行動することができていない時もあった。	B
記録の目的や意義について理解し，適切に記述できる。	記録の項目に沿って書くように努力した。しかし，実習目標が毎日同じ内容になってしまい，目標が達成の程度が書けなかった。また，内容が少ない日もあった。	B

**演習** 介護実習Ⅱでの学びを振り返り、実習目標に対する達成度を自己評価してまとめよう。

思考・判断・表現

到達目標

実習目標に対する達成度について、具体的な根拠に基づいて分かりやすく記述できている。

記述例

#### 4 介護老人福祉施設・介護老人保健施設（3学年）

### 介護実習Ⅱ自己評価

実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日	
実習施設名		
実習目標	具体的な取組・成果等	自己評価
傾聴・受容・共感の技法を用いて、利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを図る。	担当の利用者の話をしっかりと相づちを打ちながら聴き、利用者に合わせたスピードと声の大きさに留意して、言葉遣いに気をつけた。また、相手の状況に合わせて、身振り手振りを交え、理解しやすいよう工夫して伝えた。	A
安全・安楽に留意し、個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた生活支援を実践する。	利用者ができるところは自分で行えるように声かけし、安全にできるよう見守りを行うことも大切だと学んだ。視覚障害のある方の介助では声かけを丁寧に行い、安心していただくことや安全に留意することの大切さを学んだ。	A
一人の利用者についてICFの視点で全体像をとらえ、アセスメントを行う。	介護過程の記録用紙の項目に沿って、利用者の情報を厚め、背景も含めて内容を整理し、利用者の課題について指導を受けながら理解できた。	A
個別性の尊重や自立支援の観点をふまえた介護計画を立案する。	介護計画を立てたところ、利用者にとって意味のあるもので、利用者が取り組みやすいように工夫できていると言ってもらった。	A
介護計画に基づき、適切に生活支援の実践、評価および修正を行う。	利用者の食事の支援について、以前より食べやすくなったと利用者と言ってもらい、職員も同じように行ってくれることになった。しかし、レクリエーションに関する計画については、情報が不十分であり、中途半端になってしまった。	B
多職種との協働を図る。	介護過程検討会で、看護師、理学療法士、管理栄養士に指導を受けることができた。施設ではボランティアを受け入れ、地域の人と交流していることがわかった。	A
介護福祉士としての基本的な態度を身につける。	自分から積極的に指導を受けるよう努めた。また、職員から言葉遣いや態度ができていると言ってもらった。	A
記録の目的や意義について理解し、適切に記述できる。	毎日の記録を書くときは、内容をよく考えて、自分の学んだことを整理してから書くようにした。介護過程の記録用紙は、実習指導者に教えてもらって完成させることができたが、時間がかかりすぎてしまった。	B

## Ⅷ 介護実習の事後学習

### Ⅰ お礼状の作成

**演習** お礼状作成の留意点を理解し、お礼状を書こう。 **思考・判断・表現**

到達目標

お礼状のエピソードの文章が具体的で、丁寧に記述できている。

記述例

#### 1 介護実習のお礼状に書く内容

介護実習のお礼状は形式に従って書くようにする。

- (1) 頭語と結語を使う
- (2) 挨拶
- (3) 名乗り
- (4) お礼
- (5) 具体的なエピソード
- (6) 改めてのお礼
- (7) 最後の挨拶
- (8) 日付と名前
- (9) 宛先の施設名と担当者名

#### 2 介護実習のお礼状の書き方

##### (1) 頭語と結語を使う

手紙のマナーである「頭語・結語」として、介護実習のお礼状には「拝啓・敬具」の組み合わせを使う。「前略・草々」はお礼状には使わない。

##### (2) 挨拶

季節の挨拶からはじめ、その次に「時下（貴施設におかれましては）ますますご清栄のこととお喜び申し上げます」などの挨拶を入れる。この部分は手紙の挨拶文として、ある程度定型化されている。「時下（貴施設におかれましては）ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます」、「時下（貴施設におかれましては）ますますご隆盛のことと存じます」、「時下（貴施設におかれましては）ますますご清祥のこととお慶び申し上げます」などを使う。

##### (3) 名乗り

「私は○月○日から○月○日まで介護実習に行かせていただきました、有田中央高等学校二（三）年の○○××（フルネーム）と申しますなど、相手にこちらが誰であるかを伝える。介護実習を終えてすぐに届けたお礼状であっても、書くようにする。

##### (4) お礼

「この度は●日間に渡り大変貴重な体験をさせていただき、誠にありがとうございました」、「この度は、職員の皆様や利用者の方々に大変お世話になり、本当にありがとうございました。」などの文章から始める。続けて「○○などたくさんのことを教えていただき、私にとってかけがえのない大変有意義な日々となりました。」、「学校では知ることができなかった○○について学ぶことができ、とても充実した●日間でした。」、「介護実習ではこれまで学んだ知識を実践の場でより深めることができました。」、「介護の現場を初めて体験する私にとりまして、今回の介護実習はすべてが印象的でした。」など、どんなことに感謝をしているのか、自分にとってどのような意味のある実習だったのかということを書く。

## 重要！

### (5) 具体的なエピソード

お礼状では具体的なエピソードを入れることが大切である。ただ「ありがとうございました」を繰り返すのではなく、特に印象に残っている教えや出来事を添える。

「貴施設で過ごした〇日間は毎日が勉強でしたが、特に印象に残っているのは〇日目の〇〇です。〇〇を覚えていただいたことで、〇〇が必要であることに気付くことができました。」「〇〇を経験させていただき、学校で習得した基礎の生活支援技術を利用者様一人一人に合った介助を行うために応用することの難しさを改めて知り、今後の自分自身の介護技術を向上のためのヒントを得ることができました。」「介護実習を終えて、自分に欠けている〇〇についてさらに勉強を深めたいと思いました」など経験した出来事を具体的に書く。

### (6) 改めてのお礼

エピソードが書き終わったら改めてお礼を伝える。「まずはご指導を賜りましたお礼をお伝えしたく、お手紙をお送りすることにいたしました。本当にありがとうございました」「皆様から教えていただいた思いやりや心遣いを自分のものにできるよう、これからも介護福祉士になるための勉強に真剣に取り組んでまいりたいと思います。」「また、ご担当くださった〇〇さんのお仕事をそばで拝見し、私もいつか〇〇さんのようにさまざまなところへ気を配ることのできる社会人になりたい、と志を強くいたしました」「まずはご指導を賜りましたお礼をお伝えしたく、お手紙をお送りすることにいたしました。本当にありがとうございました」「略儀ではありますが、文中より御礼申し上げます」など、一区切りつくようなお礼文を添える。

### (7) 最後の挨拶

本文の締めには「末筆ながら施設長はじめ皆様のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。」「末筆ながら、貴施設の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。」などの一文を入れます。この部分は冒頭の挨拶と同じで、定型化されている文言でよい。

### (8) 日付と名前

締め文の後には手紙を書いた日付と名前を書く。日付は和暦、名前は大学名から続けて書くようにする。日付は上から2文字分空けて書き、学校名・名前は便箋の一番下（横書きの場合は左端）に寄せて書く。

### (9) 宛先の施設名と担当者名

最後に宛先となる施設名と施設長名を書く。相手の施設名と施設長名は、便箋の一番上（横書きならもっとも左）から書き始める。略すことなく、正式名称で書く。

## 2学年お礼状(例)

拝啓 秋晴の候

□時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

□私は●月●日から■月■日まで介護実習に行かせていただきました有田中央高等学校二年生の●●●と申します。

□この度は、八日間にわたり介護実習をさせて頂き、誠にありがとうございました。

□介護の現場を初めて体験する私にとりまして、今回の介護実習はすべてが印象的でした。学校では知ることができなかったことや理解できなかったことをたくさん学ぶことができました。

□特に、指導者の方から利用者の状況をよく見るようご指導いただき、実践を重ねる中で観察の大切さに気づくことができました。

□職員の皆様が毎日丁寧に指導くださり、本当にありがとうございました。

□皆様から教えていただいた思いやりや気配りを自分のものにできるよう、これからも介護福祉士になるための勉強に真剣に取り組んでまいりたいと思います。

□末筆ながら、貴施設の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

敬具

□□令和三年九月二日

和歌山県立有田中央高等学校 2年 ●●●●●  
介護老人福祉施設 □□□  
施設長 ○○○○様

## 3学年お礼状(例)

拝啓 仲秋の頃、貴施設におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

□私は●月●日から■月■日まで介護実習に行かせていただきました有田中央高等学校三年生の●●●と申します。

□この度は二十八日間にわたり介護実習をさせて頂き、誠にありがとうございました。

□介護実習では職員の皆様や利用者の方々には大変お世話になり、これまで学んだ知識を実践の場でより深めることができました。

□介護過程の展開を通して、改めて個別的な支援の意味を学ぶことができました。また、ご担当頂いた○○さんのお仕事をそばで拝見し、私も○○さんのように細やかな気配ができる介護職員になりたい、と志を強くいたしました。

□介護福祉士国家試験に向けて、学校の学習や実習に真剣に取り組んでまいりたいと思います。

□まずはご指導を賜りましたお礼をお伝えしたく、お手紙をお送りすることにいたしました。本当にありがとうございました。

□末筆ながら、施設長様はじめ皆様のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

敬具

令和三年九月一日

和歌山県立有田中央高等学校 三年 ●●●●●  
介護老人福祉施設 □□□  
施設長 ○○○○様

【提出する記録用紙】

- (1) 介護実習オリエンテーション記録（3施設）
- (2) レクリエーション実施計画書（3施設）
- (3) 中間カンファレンスのまとめ（3施設）
- (4) 最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめ（3施設）
- (5) 介護実習項目チェックリスト（3施設）
- (6) 介護実習記録（毎日の記録）

2 実習のまとめの作成

**演習** 介護実習 I での学びを振り返って、項目に従ってまとめを記述しよう。

知識・技術 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度

到達目標

介護実習 I の学びを振り返り、項目に従って考察し、分かりやすくまとめることが

介護実習での学びを整理して考察を深めるために、記録等を振り返り、作成する。「介護実習 I のまとめ」の用紙に、実習施設ごとに、実習施設・事業所や利用者の状況、生活支援についてまとめた上で考察や感想を書く。

(1) 施設の概要

オリエンテーションやカンファレンスなどで学んだ内容から選んで書く。

(2) コミュニケーション

利用者の状況やどのような点に留意しながらコミュニケーションを図ったか書く。

(3) 生活支援技術

実践した生活支援技術の中から選び、学んだ内容を詳しく書く。

(4) 考察を深めたいテーマとその理由

介護実習の経験の中で、さらに考察を深め、報告書にまとめる内容を選ぶ。実践した生活支援技術の中で、自分が特に深く学ぶことができた内容を選ぶ。

1 施設の概要

①【〇〇デイサービスセンター】

利用者の人数 18名（要介護1：5人 2：9人 3：6人 4：7人 5：5人）職員の構成 介護職員，看護職員

②【〇〇グループホーム】

利用者の人数 1階9名，2階9名の計18名 職員数 17名（パートを含む）正社員

職員の構成・役割 早出，日勤，遅出，夜勤，夜勤明け，フリー勤務（月1，2回）

早出：受診対応，入浴介助 日勤：申し送り，昼食づくり 遅出：買い物（火，金），夕食づくり

夜勤：一人で対応 施設と地域との取り組み・交流している事例 夕涼み会，運営推進会議

③【■■特別養護老人ホーム】

利用者の人数 48名（ショートステイ19名）要介護度4～5（入所されている利用者）

職員の構成 介護職員，看護職員，ケアマネジャー

## 2 コミュニケーション

### ①【〇〇デイサービスセンター】

多くの利用者と話せるように積極的に話しかけるようにした。デイサービスは毎日利用者が替わるので、多くの方と話すことができた。ある利用者は話しかける前は静かな方なので話してくれるか心配したが、実際に話してみるといろいろなことを話してくれたので、実際に話してみることが大切だと思った。聞き取りやすい声の大きさと、早口にならないように気を付けて話すこと、話をしている時は、椅子に座ってなるべく近くに座って話をすることや、何を話したらいいのかが、分からない時は、周りに何があるのか（広告の紙、新聞）などの話の題材を見つけて話をしたら話しがしやすいし会話も続くなどのアドバイスをもらった。

### ②【〇〇グループホーム】

初めは、自分から進んで話しかけることができなかった。職員に利用者と話す時のアドバイスをもらって実践した。1階の利用者は、利用者の方から話しかけてくれたので話しやすかった。初めて認知症の方と話して、同じ話を何回もしたり、お昼ご飯を食べた後に、ご飯はいつ食べられるのか聞いていたりすることがわかった。認知症のある利用者が同じ話をしても、初めて聞いた話のように、一つ一つの話に丁寧に対応することを意識してコミュニケーションを図る必要があることがわかった。手に触れながらコミュニケーションを図ることも大切であるとアドバイスをもらった。

### ③【■■特別養護老人ホーム】

自分から利用者に積極的に話しかけるように努力した。話しかけたら笑顔で話してくれた。多くの利用者と話すことができたが、認知症の方が多かった。「いつ帰れるのか。」「家にどうやって帰ったらいいのかわからない。」など、どう答えたらいいのかわからないことを質問され、答え方が難しいと思った。話している時は、何を話そうかなとか、どういうふうに話したらいいのか、話が続かなかったらうしようなどのことを考えていた。コミュニケーションは、話すだけでなく、手に触れたりすることも効果的であるとアドバイスをもらった。

## 3 生活支援技術

### ①【〇〇デイサービスセンター】

入浴介助では、しっかりとしている利用者が多いので、自分でできることはしてもらっていて、頭髪を十分に洗えていなかったり、自分では手の届かないところなどを職員が手伝っていた。食事介助は、

利用者の嚥下状態に合わせた食事が提供されていた。トイレは、誘導の必要な利用者が多かった。認知症の方はトイレに行くことを忘れてしまうので職員さんが声をかけてから、誘導をしていた。

## ②【〇〇グループホーム】

入浴介助ではその人の身体の状態に合わせて、介助の仕方や準備を行っていた。

トイレ介助やトイレ誘導では、麻痺があり自分ではトイレに行くのが難しい利用者には手引きを行い利用者のペースに合わせて誘導したり、車いすを使用している利用者には車いすからトイレに座ってもらう、トイレから車いすに戻る介助を行っていた。食事介助では、利用者の嚥下状態を考えて、とろみをつけたり、ミキサー食にするなどをして食事を提供していた。また、なかなかご飯を食べてもらえない利用者には、医師から提供されたカロリーゼリーなどで栄養を補っていた。手指に障害があっても、食事を自力摂取する利用者には、昼食の時は、スプーンやフォークの持ち手を太くして持ちやすいようにして食事をしていた。

## ③【■■特別養護老人ホーム】

入浴は、一般浴と特浴に分かれていた。一般浴では、自分で出来る場合は、頭を自分で洗ったり、届くところは自分で洗身してもらい、難しいところを支援していた。特浴では全体的に介助を行っていた。食事はその利用者にあった食事を提供していた。排泄介助は、自分で動くことができる人はトイレ誘導を行い、難しい人はベッド上でおむつ交換を行っていた。

## 4 考察を深めたいテーマとその理由

**テーマ** 利用者一人一人にあった入浴の方法と介助

**理由** 一般浴と、機械浴の違い、また、一般浴でも利用者に合った方法について学んだ。例えば、できるところは自分で洗ってもらう方、私物のボディソープを使う方、湯船につかる時に歩ける方は歩いてつかるなど、その人に合った方法を学んだ。着脱も利用者それぞれの方法があり、その人に合った介助をする必要があると学んだ。着脱の時はずっと寒いと言っている利用者、歩くのが困難で、入浴用車いすを使う利用者、機械浴で寝たまの姿勢で入浴を行っている方など、利用者によって入浴介助の方法が異なることを学ぶことができたので、このテーマにした。

### 3 実習報告書の作成・実習報告会の準備

**演習** タイトルを決め、介護過程の展開に沿って、「事例研究」として「報告集」をまとめる。それを基に、報告会の発表のためのスライドを作成する。 **知識・技術** **思考・判断・表現**

#### 到達目標

##### 主体的に学習に取り組む態度

介護実習Ⅰの学びからテーマを決め、テーマに関連した利用者の状況や実施した生活支援技術、また調べた内容を含めて考察を深め、具体的にまとめることができている。

#### (1) タイトル

具体性のあるタイトルを考えるようにする。簡潔な表現で、ポイントとなるキーワードを含んでいるタイトルがよい。漠然として内容がイメージできないタイトル、例えば「Aさんの介護について」や「認知症のある高齢者とのコミュニケーションについて」などは漠然としている適切ではない。具体例としては、「麻痺があるために食べこぼしがある利用者Bの安全で安楽な食事介助について」、「両下肢麻痺のある利用者Cの安楽な体位の工夫について」などが挙げられる。

#### (2) タイトルの設定理由

介護実習のどのような経験からこのテーマを選んだのか、問題意識や関心などの理由を説明する「指導を受けて〇〇の大切さが分かった。」、「利用者との関わりで●●について学ぶことができた。」などのように書く。

#### (3) 利用者の状況

タイトルに関連した利用者の身体的・精神的・社会的な状況をまとめる。

#### (4) 介護実習先での生活支援技術について

実習指導者の指導を受けながら自分が実践したコミュニケーション技術及び生活支援技術とその考察を書く。

#### (5) 生活支援技術について調べたこととまとめ

介護の現場で学んだことの根拠を、教科書や参考資料を使って確認したうえでまとめ、考察や感想を書く。

#### (6) 全体を通しての考察と今後の学習に生かしたいこと

今回の報告書の作成を通しての考察と、さらに学びたい内容および今後の課題等を書く。

#### (7) 引用文献・参考文献（介護実習Ⅱも共通）

単行本の場合 著者名（出版年）・『書名』・出版社名

雑誌の場合 著者名（出版年）・「表題」『雑誌名』・出版社名

#### 〔報告書の表記方法について（介護実習Ⅱも共通）〕

### 1 表記方法を統一する

(1) 文章は「常体」つまり「である・だ」などで終わる。

(2) 数字は算用数字とし、1階、2名のように記載する。

(3) 年号は西暦と（和暦）の併用表記を原則とする。1958（昭和33）年のように記載する。

(4) 特定できる情報は、A施設、B町、利用者C、職員D、理学療法士Eというようにアルファベットを使って匿名にする。

(5) 発現した内容は「 」書きにする。

(例) 図1 利用者Aの自助具

(6) 図や表を使うときは、タイトルと通し番号をつける。

(7) 接続詞は、基本的に「ひらがな」を用いる。

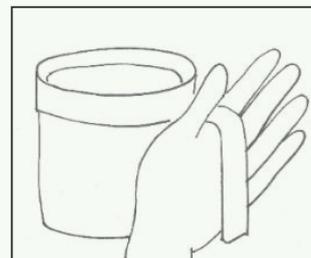
### 2 わかりやすい表現にする

(1) 長すぎる文章にならないよう注意する。

(2) 主語・述語に矛盾がないように書く。

(3) 1つの文章には、主語と述語はひとつずつにする。

(4) 事実（客観的な内容）と、自分の考えや感想（主観的な内容）は区別する。



## 1 タイトル

高度難聴のある認知症の方とのコミュニケーションについて

## 2 タイトルの設定理由

今回の実習で多くの認知症の利用者とかがかわることができた。その中でも高度難聴のある認知症の利用者とのコミュニケーションについて学ぶことができたので報告する。

## 3 利用者の状況

利用者Cは、認知症がある高齢者であり、高度難聴である。日中はリビングルームにすることが多いが、入所されている他の利用者とは会話することはほとんどない。利用者Cは、午前中は口数が少ないが、夕方になると「死にたい」などの訴えがある。食事の時はあまり食べず「歯が痛い」など訴え、食事を残すことが多い。入浴は嫌がることが多い。歩行は少しの支えは必要であるが自立している。精神科を受診しており投薬治療を受けている。

## 4 介護実習先での生活支援技術

認知症と高度難聴がある利用者Cに対し、どの程度の大きさの声で話したらいいのか、どのように対応したらいいのか分からず戸惑った。職員が利用者Cと接している様子を観察した。職員がCの耳元で大きな声で話しかけており、ジェスチャーも交えていた。利用者Cから「死にたい」や「家に帰りたい」などの訴えがあったときに、職員は「散歩に行きませんか」と話しかけ、廊下を一緒に歩いていた。食事のとき、「歯が痛い」という訴えに対し、処方されている薬を飲んでもらったり、主食を粥食に変更したりしていた。また、「死にたい」という訴えに対し、精神科の医師と連絡を取り対応の仕方を確認してからコミュニケーションを図っていた。私も職員のように利用者Cとコミュニケーションを図ろうと、耳元で大きな声で話しかけたが、きちんと伝わっているかよく分からなかった。それでも、利用者Cの訴えを傾聴するように努めた。

## 5 生活支援技術について調べたこととまとめ

聴覚障害について調べたことをまとめる。聴覚障害とは、音が十分に聞こえない、言葉を十分に聞き分けられない状態をいい、生まれつき聞こえない場合が多い。音が全く聞こえない、ほとんど聞こえない状態(ろう)と、聞こえにくい状態(難聴)がある。先天的な聴覚障害の原因は遺伝的要因が多いとされるが出産時の異常や未熟児出産による場合もある。後天的な聴覚障害の原因としては乳幼児期における中耳炎、精神的ストレス、老化などがある。コミュニケーションの留意点は、聴覚障害のある人の言いたいことを理解し、介護者の言いたいことを聴覚障害のある人に伝える方法を確立することである。難聴者の介護を行う場合は、明るい、静かな場所でゆっくりと話し、介護者の意思が十分に伝わったかを確認する必要がある。老化に伴う聴力の低下や言葉の理解力の低下などがみられることも配慮する必要がある。利用者の伝えたいことの理解に努めるため、静かで落ち着いた環境を整えることが必要である。また、重要なことについては書いて確認することも必要である。6 考察・今後の学習に生かしたいこと 難聴は話の内容がよく聞こえないため、会話がスムーズに行えず人と接することが億劫となりがちであることがわかった。他の利用者とのコミュニケーションを取るのが難しいため、関わりが少なかつたのだろう。聞こえないことが、精神的にふさぎ込んでしまうことにつながっている可能性もある。認知症がある高齢者の場合は特に配慮が必要になるのではないかと。今回かわかった利用者Cに対するコミュニケーションについて、私の話がきちんと伝わっていないのではないかと

と悩んでいると、職員より「訴えを聞いてくれるだけでも利用者への安心につながる。内容を正確に伝えることだけがコミュニケーションではない」とアドバイスをもらった。コミュニケーションの基本である訴えを傾聴し、目線を合わせ笑顔で接することで、少しでも安心して生活できるような支援が大切だということ学んだ。次回の実習でもこのことを踏まえ難聴のある利用者とのコミュニケーションに役立てたいと思う。

#### 引用・参考文献

石渡和実他編 (2018) 『新・介護福祉士養成講座 / 3 障害の理解』中央法規出版  
是枝祥子他編 (2018) 『新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ』中央法規出版

### 4 実習報告会の開催（介護実習Ⅱも共通）

実習報告会は体験を発表したり、他の生徒の体験を聴くことで、改めて自分の学びを振り返り、学びを整理する場である。発表者は、報告書を基に発表内容を考え、参加者の理解が得られるように、十分に準備と工夫を重ねる。報告書を読むことが発表ではないので、**発表原稿を聞き取りやすいように話し言葉で書き、模造紙やプレゼンテーションソフトなどを準備し、参加者によく伝わるような工夫を行う。**

発表原稿が準備できたら、原稿を読んで時間を計測する。発表に当たっては、**姿勢がよいこと、表情がよいこと、適度な緊張感があること、原稿から目を離して聴衆を見ながら話すことなどの態度に留意する。**また、話し方として、**適度な声の大きさで、滑舌よくメリハリを付けることや、話の間やスピードを考えることが大切である。**

他の生徒の発表を聴く際には、発表者の方を向き、私語や居眠りなどは厳重に慎み、傾聴し共感する姿勢で、メモを取りながら聴くことが大切である。発表後は、メモの内容を記録用紙に記入し、もっと詳しく聴きたい内容や、分からない用語などはそのままにしておかずに質問をすることも重要である。質問に対しては、質問者は利用者や実習施設について知らない状況であることを考慮し、できるだけ具体的に答えるようにする。

## 3 介護実習Ⅱのまとめと報告書作成

### 1 介護実習の記録用紙の提出

【提出する記録用紙】

- (1) 介護実習オリエンテーション記録
- (2) 介護過程記録(1)～(3)
- (3) 最終カンファレンス（介護実習反省会）のまとめ
- (4) 介護実習項目チェックリスト
- (5) 介護実習記録（毎日の記録）

## 2 実習のまとめ

**演習** 介護過程の展開を中心として介護実習での学びを整理し考察を深めるために、介護実習の記録用紙を振り返り、「介護実習Ⅱのまとめ」を作成する。**知識・技術** **思考・判断・表現**  
**主体的に学習に取り組む態度**

### 到達目標

介護実習Ⅱで学んだ内容について項目に従って考察を深め、成果と課題について記述することができている。

#### (1) 「介護過程」の展開を通しての考察や感想

利用者の介護過程の展開についてまとめ、成果と課題を書く。

#### (2) 報告書のテーマとその理由

利用者の介護過程の展開において、アセスメントや介護目標から、中心となるテーマを書く。

「〇〇を望まれている利用者に●●を目標に支援を行った。」のように中心となるテーマが決まったら、なぜそのように考えたのかを記入する。

### 1 「介護過程」の展開を通しての考察や感想

利用者Mは、意思疎通が難しい方でコミュニケーションを図ることが難しく、情報収集をする際戸惑うことが多かった。職員に質問の方法を変えてみたりするといいと教えてもらい、言い方を変えて質問したら、答えを聞くことができた。でも、利用者の深い思いを聞くことは、聞いていいのかわからず、あまり踏み込んで聞くことができなかった。

計画を立てる際には、Mが少しでも楽しく施設での生活をおくることができるよう、他の利用者との関わりを増やすことができるように考えた……

実施では、計画した支援を行う時に利用者に喜んでいただけるように考えて実施した。

痛みを緩和するために行った足浴は、職員にポイントを教えてもらいながら実施した。

また、他の利用者との関わりを持ってもらうために風船バレーを行った際に、職員が声出して盛り上げたらいよいよと教えてくれた。……

評価の際には、支援を行った時の利用者様の表情や言葉を細かく記録することができていたので良かった。利用者Mにとって楽しく過ごすとは、どういう状態をいうのか深く考えることができた。

## 2 報告書のテーマとその概要

### 【テーマ】

人との関わりが少ない利用者が他者と関わりを持ち楽しく生活が送れるような支援

### 【概要】

利用者Mは、以前入所していた施設で同室の利用者への暴力行為があった。一度A病院に入院し退院したが、他患者の私物を取り込んだり、暴力行為があったためB医療センターに入院し、退院後〇〇への入所となった。その後も他の利用者への暴言から喧嘩になるため、一人離れて過ごしていることが多く、他者との関わりが少ない状況である。・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

他の利用者の座っている机の横に移動していただき、風船バレーを実施した。

利用者Mは、たまに他の利用者にも暴言を言うこともあるが、楽しそうにレクリエーションに参加したり、他の利用者を褒めることもある。また、職員とはよく話をしている。会話をすることは好きなのではないかと思った。利用者Mが他の利用者とトラブルにならずに楽しく過ごしてもらうにはどのような方法があるか検討を重ねた。

### 3 実習報告書の作成・実習報告会の準備

**演習** タイトルを決め、介護過程の展開に沿って、「事例研究」として「報告集」をまとめる。それを基に、報告会の発表のためのスライドを作成する。**知識・技術** **思考・判断・表現**  
**主体的に学習に取り組む態度**

#### 到達目標

介護実習Ⅱで行った介護過程の展開からテーマを決め、利用者の情報収集・アセスメント・計画立案・実施・評価の一連の流れとその考察を具体的にまとめることができている。

#### (1) タイトル

事例研究の目的や内容を表現したタイトルが望ましい。「座位保持が困難なA利用者の安全と安楽に配慮した食事の支援のあり方について」などのように設定する。

#### (2) はじめに

タイトルに沿って問題意識や関心を持った理由について説明する。研究を通して明らかにしたいことや介護過程で取り組んだことなど取組の結果の一部を簡潔に紹介する。

#### (3) 事例の概要

タイトルに関連した利用者の情報を選択してまとめる。利用者の現在の状況（身体的・精神的・社会的側面）、生活歴などをまとめる。利用者を特定できないよう、地域・施設名・名前は匿名にする。年齢は「〇歳代や〇歳代後半」と表記してもよい。経済状態などプライバシーに触れる内容や事例研究に必要でない情報は省く。

#### (4) 介護過程の展開

情報収集した内容をICFに基づき整理する。介護目標、介護計画、計画の実施、評価の内容を整理し、事実や利用者の反応などをまとめる。5W1Hを意識し、具体的にわかりやすくまとめる。介護計画が達成できたかどうかの評価とその理由を整理して書く。

#### (5) 考察

(4)の結果を分析し、その原因などを考察する。介護過程の展開を通してわかったことや気づいたことをまとめ、介護の現場で学んだことを、自分の考えだけでなく、教科書や参考資料を使って確認し、根拠を持ったまとめとする。

#### (6) まとめ

今回の報告書の作成を通して学んだことや明らかになったことをまとめ、今後その学びをどのように生かしていきたいか、また、今後の学習で解決すべき課題を書く。「まとめ」の内容は「はじめに」に対応しているかを検証する。

## 1 タイトル

認知症の利用者が施設で明るく生活できるような支援

## 2 はじめに

今回の介護実習で担当した利用者G（86歳・女性）は、アルツハイマー型認知症があり、不安があるため日常生活に支障をきたしていた。レクリエーションなどを行って楽しく過ごした日は不安が緩和された。そのため、レクリエーションを充実させ、施設での生活を楽しく過ごしていただくことが必要であると考えた。

## 3 事例の概要

利用者GはA市で生まれた。高校卒業後A市の市役所に就職をした。20歳代の頃結婚し長女がいる。60歳で退職後、孫の世話をしていた。83歳のときに脳梗塞を発症したが麻痺などの後遺症はない。同年にアルツハイマー型認知症と診断される。2020（令和2）年5月に自宅前で転倒し、右上腕骨骨折、右大腿骨頸部骨折の手術をした。リハビリテーションを継続するが右肘の痛み、食量低下、認知症からなるADLの低下がみられ、家族の希望にて介護老人保健施設に入所となった。現在では右上腕骨、右大腿骨ともに治癒しているが痛みがまだ残っている。利用者Hは「清潔な部屋で生活したい」、「手芸をしたい」と言っていた。家族の思いは一日一日を楽しく穏やかに過ごして欲しいということである。

## 4 介護過程の展開

### ■ICFに基づいた情報収集

#### ①健康

現病歴は、アルツハイマー型認知症、右上腕骨骨折の後遺症による20度の屈曲拘縮、右大腿骨頸部骨折による下肢筋力の低下 身長152cm 体重39.6kg

#### ②心身機能・身体構造

認知症による記憶障害と見当識障害がある。右肘に屈曲拘縮がある。下肢筋力が低下している。

#### ③活動

車椅子への移乗は一部介助である。車椅子での移動は足でこいで自走している。食事は自力で摂取できている。右手でスプーンを持って食べているが、右肘が痛むと左手に持ちかえている。排せつは日中はトイレで行い、夜間はおむつを使用している。

#### ④参加

仲のよい利用者与会話をしたり、カラオケをしている。

#### ⑤環境因子

5人家族で、キーパーソンは長女である。入院中は週に3回面会していた。居室は4人部屋である。施設には段差がなく手すりがついている。仲のよい利用者がトランプをしたいと言っている。

#### ⑥個人因子

優しく穏やかな性格である。趣味は手芸と音楽鑑賞。きれいな部屋で暮らしたい。不安や退屈な感情がある。

<b>アセスメント(1)</b>		<b>課題(1)</b>
日常生活において不安や退屈な感情があり、生活を楽しくめないことの悪循環になっていると考えられる。	⇒	施設での生活に安心でき、楽しく生活する必要がある。
<b>アセスメント(2)</b>		<b>課題(2)</b>
下肢筋力が低下しているため、トイレに行きたくなくなったときに不意に立ち上がってしまうことで転倒のリスクがある。	⇒	トイレに行くときに不意に立ち上がることで転倒することを防ぐ必要がある。

### ■介護目標・介護計画・実施・評価

介護目標 「毎日の日課に楽しみのある活動を取り入れることで、施設での生活を充実させる」

	介護計画	実施	評価
9/24 ～	毎日1回声かけをして、利用者Gと仲のよい利用者と一緒にトランプをして、楽しい時間を過ごしてもらう。	9/24の午後、利用者Gと他の利用者の5名でトランプ(ばば抜き)を行った。	利用者Gに感想を聞くと、「とても楽しかった」と言っており、表情も良かった。

介護目標 「転倒せずにトイレで排せつすることができる。」

	介護計画	実施	評価
9/23 ～ 9 /24	利用者Gは排せつの間隔が2時間程度なので、2時間ごとに声かけをし排せつに行くことを促し、転倒のリスクを軽減する。	10時30分に排せつに行ったので、12時30分と14時30分に排せつの有無を確認し、トイレに誘導した。	2時間おきに排せつの有無を確認することで、不意に立ち上がることがなくなり、転倒のリスクなくトイレに行くことができた。

### 5 考察

はじめは、利用者Gは「家に帰りたい」と言っているという情報に注目し、認知症の症状である「帰宅願望」であると決めつけてしまい、その症状に対する対応にこだわってしまった。しかし、その後、職員が「家族が支払いをしてくれた」と伝えたことで訴えは現れなくなった。利用者には「帰宅願望」の症状があるようにみえたが、認知症の症状ではなく、経済的な心配のためであったと考えられる。情報分析にはその方の状況をよく把握した上で、根拠のある分析が重要であると指導を受けた。

別の視点から考え、施設での生活を充実させるための計画を立てた。利用者の体調の波もあり、1回になってしまったが、トランプを楽しんでもらえた。

また、下肢筋力の低下のために歩行ができない利用者に対し、「歩けるようにしたい」という利用者の訴えを重視し、はじめは歩行ができることを目標に考えていたが、「歩く」ということだけが課題ではないと助言を受け、他のニーズについて検討した。

すると、トイレに行こうとして立ち上がったときに転倒することがわかったので転倒予防を目標にあげることにした。トイレ誘導や声かけによって予防できないか計画し、職員に確認してもらった。その上で介護計画を実施し、見守りとトイレ誘導によって転倒を防止することが確認できた。

## 6 まとめ

典型的な認知症の症状と利用者の状況を無理に結びつけて考え、「帰宅願望」にこだわりすぎてアセスメントに時間がかかってしまった。表面的な情報に注目し、この利用者ではなく、一般的な認知症介護に当てはめて考えようとしてしまった。そのためにアセスメントに時間がかかり、計画や実施が遅れてしまった。指導を受け、生活全体をしっかりと見ることで、「生活を充実させる」ことや「転倒予防」という課題を見いだすことができた。

### 参考文献

- 長谷川和夫他編 (2013) 『新介護福祉士養成講座12 認知症の理解』 中央法規出版  
田中由紀子/川井多加子 (2019) 『介護過程』 実教出版  
川井多加子/田中由紀子 (2019) 『こころとからだの理解』 実教出版

### (補足1) スライド作成の留意点

1枚のスライドに入れる情報が多すぎないように考える。スライドは「読む」というより「見る」資料であり、書いてあることを読み上げるものではない。スライドは発表の視覚的な補助として捉えて、重要なことを簡潔に書くようにする。1枚のスライドは1つの事柄に絞り、それを1分以内に簡潔に話すことができるよう考える。

【ポイント】※ フォントサイズは20pt以上にする。※ 箇条書きの項目は5項目以内にする。

※情報を整理整頓して、スライドのデザインをよく検討する。

#### 介護計画1-1

食事の前に声をかけて、トイレ誘導を行う。

※注意点

- ・食事の30分前に実施する
- ・車いすで移動する
- ・手洗いと消毒を行う

↓ 結果

安心して食事ができる。

#### 介護計画1-1

食事の前に声をかけてトイレ誘導を行う。

●注意点

- 食事の30分前に実施する
- 車いすで移動する
- 手洗いと消毒を行う

結果 安心して食事ができる

読みやすいフォントを選ぶ。 ※ 色数を減らす。 ※ 使用するフォントや、タイトル部分や強調箇所の装飾など、発表を通じてデザインに統一感をもたせる。

(補足2) スライド作成以外の発表方法 ・模造紙にまとめる。 ・ホワイトボードに記入する。